

第3学年

教養系教育・基礎科学教育科目

齒科医療管理学	125
社会齒科学	126
齒科医療人間学Ⅲ	127

生命科学教育科目

口腔生理学Ⅱ	128
口腔生化学Ⅱ	129
口腔生化学実習	131
口腔病理学	132
口腔病理学実習	135
口腔感染免疫学Ⅱ	136
口腔感染免疫学実習	137
齒科薬理学Ⅱ	138
齒科薬理学実習	140
生体材料・齒科材料学Ⅱ	141
生体材料・齒科材料学実習	142
口腔衛生学	143
口腔衛生学実習	145

口腔科学教育科目

保存修復学Ⅰ	146
冠橋義齒補綴学Ⅰ	148
有床義齒補綴学Ⅰ	149
有床義齒補綴学Ⅰ実習	151
口腔外科学Ⅰ	152
口腔内科学	154
齒科放射線学Ⅰ	155
高齢者齒科学Ⅰ	157
災害齒科医学	158
総合臨床医学	159

歯科医療管理学（後期・1単位）

D①②A-a1-3209(D3209)

科目責任者：南 健太郎（衛生・講師）

科目担当者：①南 健太郎（衛生）、②瀬川 洋（衛生）

1. 科目の概要

歯科医療管理学は、歯科医療を社会に適応するための環境および条件への考察を理論管理論で捉え、それを基本とする手段・行動を実践管理論でとらえる医療の管理学で歯科医療を社会に提供する社会歯科学系の学問である。そこで、本科目では質の高い歯科医療サービスを安定して供給し、患者満足度を高めることにより、地域社会に貢献していくための実践的な知識を総合的に講義する。

2. 一般目標

安心・安全な良質の歯科医療を提供するために必要な歯科医療管理の基礎的事項を理解して、実践できるようにする。

3. 到達目標

- 1) 歯科医療管理の概要について説明できる。
- 2) 歯科医師の義務について説明できる。
- 3) 診療記録・情報の意義および法令で定められた取り扱いについて説明できる。
- 4) 医療安全確保、医療事故の回避及び発生後の原因追及について説明できる。
- 5) 歯科診療所の開設・管理について説明できる。
- 6) 感染の予防と管理について説明できる。
- 7) 社会保障制度について説明できる。
- 8) 国民医療費について説明できる。

4. 履修の進め方

講義：授業内容に関するプリントを配布するので、必要に応じて当該プリントに記録を取りながら履修する。

復習：授業内容に関する練習問題のプリントを配布するので、即日解答し、もしわからないことや疑問点があった際には教員に質問し、放置しないようにする。

5. 準備学修

前期に履修する社会歯科学と関連があるので、履修済みの内容に関しては復習しておくこと（30分）。

6. 評価方法

定期試験（100％）で評価し、65点で合格とする。再試験は65点を上限とし、追試験は100点を上限とする。なお、試験形式はすべて多肢選択方式（MCQ：Multiple Choice Question）とする。

7. 教本

〔新版〕歯科医療管理学 安全・安心・信頼の歯科医療を提供するために 第1版 医歯薬出版株式会社 2018

8. 参考書

スタンダード社会歯科学 第7版 学建書院

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/2	歯科医療管理学総論、歯科医師法①	歯科医療管理学とは、歯科医師法	C-4-2/ 必-2-イ	① ②
2	9/9	歯科医師法② 医療情報管理	歯科医師の義務、診療録・電子診療録・SOAP、各種記録等保存期間と根拠法	C-4-2/ 必-2-イ、 C-6-3-2/ 必-2-サ	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	9/30	医療法①	医療法に規定されている事項	C-4-2-1/ 必-2-イ	①
4	9/30	医療法②	医療計画①	C-4-2-1/ 必-2-イ、 総 I-1-オ-b	〃
5	10/7	医療法③、歯科医療安全①	医療計画②、歯科診療所及び医療機関の開設と管理、ハインリッヒの法則・フルブルーフ・フェールセーフ、医療機関における医療安全対策、医療事故調査制度①	C-4-2-1/ 必-2-イ、 総 I-1-オ-b、 C-3/ 必-2-カ	〃
6	10/21	歯科医療安全②	医療機関における医療安全対策、医療事故調査制度②、感染予防管理、医療廃棄物管理	C-3/ 必-2-キ	〃
7	10/28	歯科医療事故への対応	医療過誤の民事・刑事・行政責任	C-3/ 必-2-キ	〃
8	10/28	社会保障制度①	社会保障とは、社会保障の種類、社会保険とは、社会保険の種類、医療保険①	C-4-3-2/ 総 I-1-ウ	〃
9	11/11	社会保障制度②	医療保険②	C-4-3-2/ 総 I-1-ウ	〃
10	11/18	社会保障制度③	医療保険③、年金保険	C-4-3-2/ 総 I-1-ウ	〃
11	11/25	社会保障制度④	社会保障給付費、国民医療費	C-4-3-2/ 総 I-1-ウ	〃
12	11/25	社会保障制度⑤	公的扶助、社会福祉①	C-4-3-2/ 総 I-1-ウ	〃
13	12/2	社会保障制度⑥	公的扶助、社会福祉②、介護保険①	C-4-3-2/ 総 I-1-ウ	〃
14	12/9	社会保障制度⑦	介護保険②	C-4-3-2/ 総 I-1-ウ	〃
15	12/9	社会保障制度⑧、歯科医療管理学のまとめ	介護保険③、地域包括ケアシステム、歯科医療管理学のまとめ	C-4-3-2、 C-4-3-6/ 総 I-1-ウ	① ②

社会歯科学（前期・1単位）

D①②A-a1-3208(D3208)

科目責任者：南 健太郎（衛生・講師）

科目担当者：①南 健太郎（衛生）、②瀬川 洋（衛生）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

社会歯科学は、歯科医師が歯科医療と保健指導を実施するための制度を学ぶ学問である。本科目では、歯科医師として当然具備すべき法律の知識や社会情勢の変遷について学ぶ。

2. 一般目標

学修者は歯科医師として稼働するのに必要な法的知識と社会保障制度について学び、社会の変化やニーズに対応できる基礎的能力を習得する。

3. 到達目標

学修者は以下の到達目標を説明できる。

- 1) わが国の行政機構を説明できる。
- 2) 歯科医師の刑事・民事・行政責任を説明できる。
- 3) 歯科医療関連法規を説明できる。
- 4) 社会保障制度を説明できる。
- 5) 医療保険制度と国民医療費を説明できる。
- 6) わが国の社会構造の変化に伴う歯科医療・保健の変化を説明できる。

4. 履修の進め方

スライド、配布資料を使用して、教科書の内容をより分かりやすく解説する。

5. 準備学修

教科書（シラバスより授業内容を確認）をよく読み、講義の内容を把握しておくこと（15分）学習した内容を整理し、疑問点がないか確認すること。（30分）

6. 評価方法

定期試験で評価し、65点以上で合格とする。試験形式は多肢選択方式50問とする。再試験は65点を上限とし、追試験は100点を上限とする。

7. 教本

石井拓男 他 編 スタンダード社会歯科学 第8版 学建書院

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	社会歯科学概論	歯科医師の責務と倫理	C-1-1/ 必1-ア	① ②
2	4/16	医事衛生法規1	歯科医師法、 歯科衛生士法、 歯科技工士法	C-4-2/ 必2-イ	①
3	4/23	医事衛生法規2	医療法	C-4-3/ 必2-イ	〃
4	5/7	医療連携、 チーム医療	医療関係職種、 医療機関での チームワーク、 地域医療での チームワーク	C-1-3/ 必2-ウ	〃
5	5/14	診療情報・診療記録	診療情報、診療記録・医療記録、 診断書	C-3-1/ 必2-サ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
6	5/21	医療の質と安全の確保	医療の質の確保、 医療事故防止、 院内感染対策、 医事裁判	C-3-1/ 必2-カ、キ	①
7	5/28	薬事衛生法規	医薬品、医療機器等の品質、 有効性及び安全性の確保に関する法律、 臨床試験と倫理	C-4-2/ 必2-ケ	〃
8	6/4	衛生行政とその他の衛生法規1	地域保健法、 健康増進法	C-4-5/ 総I-1-オ、 総I-8-イ	〃
9	6/11	衛生行政とその他の衛生法規2	学校保健安全法、 母子保健法、 労働安全衛生法、 歯科口腔保健の推進に関する法律	C-5-5/ 総I-2-ア、 イ、ウ	〃
10	6/18	社会保険1	医療保険	C-4-3/ 総I-1-ウ	〃
11	6/25	社会保険2	介護保険、 地域包括ケアシステム	C-4-3/ 総I-1-ウ、カ	〃
12	7/2	社会保障制度	年金保険、 雇用保険	C-4-3/ 総I-4-ア	〃
13	7/9	公的扶助	生活保護法	C-4-3/ 総I-1-ウ	〃
14	7/16	社会福祉	精神保健福祉法、 障害者総合支援法	C-4-3/ 総I-2-カ、 総I-1-オ	〃
15	7/23	国民医療費	国民医療費	C-4-3/ 総I-4-ア	〃

歯科医療人間学Ⅲ（前期・1単位）

D①A-a1-3403(D3403)

科目責任者：中川 敏浩（組織・准教授）

科目担当者：①中川 敏浩（組織），②長岡 正博（薬理），
③吉田いくよ（非常勤），④鈴木 俊子（非常勤），
⑤本多 真史（日本語）

※この科目は、診療経験のある歯科医師及び一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

歯科医療人間学（Dental Practice Human Science）は、本学歯学部での目的である。

「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり、高度専門職業人（プロフェッショナル）としての歯科医師である前に社会人としての素養、教養および社会適応能力を高揚し、自らのホスピタリティマインドに加えて、患者中心の医療を全人的に捉えるため、身体面、心理面、社会面、倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し、「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

2. 一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために、大学で学ぶ目的を明確化し、歯学医療現場にふれ、基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度、知識および技能を修得する。

3. 到達目標

- 1) 医療現場でのルールを理解する。
- 2) 医療人として謙虚な態度を示す。
- 3) 患者の訴えを正確に聞き取る。
- 4) 基本的な会話で診療室情報を尋ねる。

4. 履修の進め方

講義形式で教本に準じてスライドと資料を用いて履修する。

5. 準備学修

事前にシラバスで内容を確認する。また、人と接する時は状況を把握し、意識をして対応することを日頃から心がける。参考書や参考資料は特にないが配付したプリント活用して自然に実践できるように日々訓練をする。(30分)

6. 評価方法

最終日のビデオ撮影（言語表現・非言語表現・全体印象評価）や記述式試験、客観的試験により平均値を算出し65点以上を合格とする。

7. 教本

特になし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/11	オリエンテーション	3年次の歯科医療人間学の目的を概説する	C-1-2, C-1-3-4 C-1/ 必-1-アイ-ab	① ⑤
2	4/18	ある医療事故から (KJ法)	実際に起こった歯科医療事故から検証し、防止策を探る	C-3-1/ 必-2-カ-f	①
3	4/25	ある医療事故から (KJ完成)	実際に起こった歯科医療事故から検証し、防止策を探る	C-3-1/ 必-2-カ-f	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
4	5/9	3-A 口頭表現・傾聴・アサーションの実践 I	コミュニケーションの復習と実践・演習	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	⑤
〃	5/9	3-B 聴くこと・伝えること I	如何に正確に伝わるか、伝えるか	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	② ③ ④
5	5/16	3-A 聴くこと・伝えること I	如何に正確に伝わるか、伝えるか	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	〃
〃	5/16	3-B 口頭表現・傾聴・アサーションの実践 I	コミュニケーションの復習と実践・演習	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	⑤
6	5/23	3-A 聴くこと・伝えること II	如何に正確に伝わるか、伝えるか	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	② ③ ④
〃	5/23	3-B 口頭表現・傾聴・アサーションの実践 II	好感度、信頼度アップの会話とは？	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	⑤
7	5/30	3-A 口頭表現・傾聴・アサーションの実践 II	好感度、信頼度アップの会話とは？	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	〃
〃	5/30	3-B 聴くこと・伝えること II	如何に正確に伝わるか、伝えるか	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	② ③ ④
8	6/6	3-A パワーパフォーマンスを身に付けよう I	印象的な非言語コミュニケーションを会得する	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	〃
〃	6/6	3-B 医療面接に向けて① 自己PR	医療面接での会話と重要ポイントについて	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	⑤
9	6/13	3-A 医療面接に向けて① 自己PR	医療面接での会話と重要ポイントについて	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	〃
〃	6/13	3-B パワーパフォーマンスを身に付けよう I	印象的な非言語コミュニケーションを会得する	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	② ③ ④
10	6/20	3-A パワーパフォーマンスを身に付けよう II	ソーシャルスキルを会得する	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	〃
10	6/20	3-B 医療面接に向けて② 自己PR	高感度・信頼度を上げるコミュニケーションの実践	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	⑤
11	6/27	3-A 医療面接に向けて② 自己PR	高感度・信頼度を上げるコミュニケーションの実践	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
11	6/27	3-Bパワーパフォーマンスを身に付けようⅡ	ソーシャルスキルを会得する	PR-01~06 +GE-01, CM/ 必-8-ウ-abcde	② ③ ④
12	7/4	ある医療事故から (KJ 法発表)	実際に起こった歯科医療事故から検証し、防止策を探る (発表)	C-3-1/ 必-2-カ-f	①
13	7/11	ある医療事故から (二次元展開法作成)	実際に起こった歯科医療事故を二次元展開法により検証し、防止策を探る。	C-3-1/ 必-2-カ-f	〃
14	7/18	ある医療事故から (発表)	実際に起こった歯科医療事故から検証し、防止策を探る (発表)	C-3-1/ 必-2-カ-f	〃
15	7/25	形成的評価	形成的評価試験を行う	関連範囲	① ⑤

口腔生理学Ⅱ (前期・1単位)

D③B-a1-3508(D3508)

科目責任者：川合 宏仁 (生理・教授)

科目担当者：①川合 宏仁 (生理)、②大須賀謙二 (生理)、
③古山 昭 (生理)

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

生理学は、細胞から個体の行動にいたる各レベルの種々の生体機能および機構を対象として正常な状態における生命現象の機序について学ぶことを目的とした科目である。ヒトは生命を維持するための生体恒常性が乱され、その修復が困難な時に病気となる。それゆえ、正しい治療や予防措置を施すためには、病気の原因や患者の状態を正確に把握していなければならない。そのためには生体の正常な基本的機能を学び知っておくことが不可欠であり、それらの知識なくして病理学や薬理学などを正しく理解することはできないと言ってよい。講義には、近年の分子生物学や細胞生物学の著しい進展にともなった新しい内容が随時盛り込まれる。講義の各論は相互に密接な関連をもち、独立したものではないことを銘記すべきである。また生体機能は合理的に構成され、多くの場合に論理的に説明できる。

歯科医として、生理学は必要不可欠な科目である。生理学を知ることなく麻酔学や補綴学、あるいは口腔外科学を学ぶことはできない。この授業では、臨床医として最低限の正常な体の仕組みを理解し、把握することを目標とする。従って、学習に際しては、基礎的事項を必ず記憶してから「理解」をすることが大切である。

本科目では、顎・口腔・顔面領域の器官およびそれらと密接な関係をもつ器官の機能に関する基本的事項については重点的に十分な理解をすることが肝要である。

本科目の行動目標としては、種々の生命現象を営む生体の機構、特に顎・口腔・顔面領域の機構について適切な生理学用語を用いて説明でき、また、各器官の協調活動によって個体の健康が維持されていること、および歯科診療において対象となる疾患の病態生理学の基礎を理解できるようにすることである。

2. 一般目標

臨床歯科学を学習する基盤を構築するために、生体機能、生命現象の機序を理解する。

3. 到達目標

- 1) 生命現象を営む生体の機構を説明できる。
- 2) 各器官の協調活動を説明できる。
- 3) 歯科疾患の病態生理を説明できる。

4. 履修の進め方

講義を主体として、適宜、プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用し、人体の構造、詳細な構築およびそれらの機能に関して説明を加えながら進めていく。

5. 準備学修

生物学や解剖学が生理学の基礎となるため、これらの科目と連動させて学習すること。予習は、シラバスで内容を確認して、教科書・参考書で学習する (10分)。復習は、講義内容について講義ノート (プリント)・教科書・参考書で学習する (40分)。履修後は、すべての科目につながるため、繰り返し学習することが重要である。

6. 評価方法

前期の定期試験において、65点以上を合格とする。65点未満の場合には再試験を行う。65点未満の再試験受験該当者は、再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。追試験該当者に対しては、100点満点として試験を行い、65点以上

を合格とする。なお、試験問題の内容に関しては、多肢選択問題と記述式問題を出題する。

7. 教本

和泉博之・浅沼直和 編 「ビジュアル生理学・口腔生理学」第3版 学建書院 2021

岩田幸一・井上富雄ほか 編 「基礎歯科生理学」第7版 医歯薬出版 2020

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/12	排泄(I)	ネフロン働き, 尿の生成, 再吸収と分泌	A-3-1/ 必4-ア-e, 総II-1-キ	②
2	4/19	排泄(II)	細胞外液量の調節と浸透圧の調節	A-3-1/ 必4-ア-e, 総II-1-キ	〃
3	4/26	排泄(III)	ホルモン, 排尿の神経機序	A-3-1/ 必4-ア-e, 総II-1-キ	〃
4	5/10	運動(I)	随意運動, 脊髄反射と姿勢反射	A-3-1/ 総II-1-ク	③
5	5/17	運動(II)	運動制御のしくみ, 運動中枢と大脳基底核	A-3-1/ 総II-1-ク	〃
6	5/24	運動(III)連合系	脳幹と小脳の機能, 大脳皮質感覚-運動連合系の役割	A-3-1/ 総II-1-ク	〃
7	5/31	脳と行動(I)	大脳皮質の機能局在, 情動と本能行動	A-3-1/ 総II-1-ク	〃
8	6/7	脳と行動(II)	大脳辺縁系, 視床下部, 意識	A-3-1/ 総II-1-ク	〃
9	6/14	脳の統合機能	脳波, 睡眠, 記憶	A-3-1/ 総II-1-ク	〃
10	6/21	構音と発声(I)	喉頭の構造と発声のしくみ, 発声器官としての口腔	A-3-2/ 総VI-1-イ	②
11	6/28	構音と発声(II)	言語音形成のしくみ	A-3-2/ 総VI-1-イ	〃
12	7/5	摂食・嚥下	嚥下運動の特徴と中枢性機序	A-3-1, A-3-2, D-5-7/ 必-6-イ, 総II-6-エ	①
13	7/12	嘔吐	嘔吐の特徴と発生機序	A-3-2/ 必-7-ア, 総IV-1-エ	〃
14	7/19	体温調節と代謝(I)	体温調節と代謝	A-3-1/ 必4-ア-e, 総II-1-ク, ケ	②
15	7/26	体温調節と代謝(II)	体温調節と中枢	A-3-1/ 必4-ア-e, 総II-1-ク, ケ	〃

口腔生化学Ⅱ (前期・2単位)

D③B-a2-3511(D3511)

科目責任者：加藤 靖正 (生化・教授)

科目担当者：①加藤 靖正 (生化), ②前田 豊信 (生化),
③神林 直大 (生化), ④半田 慶介 (非常勤)

1. 科目の概要

生化学は代謝という化学的な側面から生体の成り立ちを理解する学問である。暗号化され細胞の核に保存されている遺伝情報は基本的にタンパク質の一次構造でしかないが、生体には脂質や糖質などたくさんの物質から成り立っている。遺伝情報を司る核酸そのものさえ、糖やアミノ酸、リン酸などから合成されているのである。口腔生化学Ⅱでは、歯科・口腔領域に特化した生化学について専門的に学ぶ。また、癌やメタボリックシンドロームなど社会的に問題となっている病態について生化学的側面から理解を深めるとともに、遺伝学の一端として、先天性疾患について臨床科目での講義に先立ち、これらの発症原因となっている障害遺伝子の本来の役割などを通じて病態との関連性に対する理解を深める。

2. 一般目標

歯科・口腔領域として、細胞外マトリックス分子、骨、軟骨、歯、唾液、及び齲蝕について焦点を絞り、構造と機能について学修する。また、染色体異常、結合組織の異常、色素沈着のみられる疾患、新生児のマススクリーニング対象疾患などについて焦点を絞り、遺伝形式と病態の基本的事項について学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 細胞外マトリックス分子の構造と機能について説明できる。
- 2) 硬組織の構造と機能を説明できる。
- 3) 血清カルシウムホメオスタシスについて説明できる。
- 4) 唾液・プラーク・齲蝕の分子機構について説明できる。
- 5) 細胞内情報伝達機構について説明できる。
- 6) DNAの損傷と修復について説明できる。
- 7) 遺伝病・遺伝子病の成因について例を挙げて説明できる。
- 8) 生活習慣病の成因について説明できる。

4. 履修の進め方

予習：教科書(該当箇所のページ)を読み、講義内容の概略を把握するとともに疑問点を見出しておく。

講義：板書やパワーポイントを使用した解説を聴講し、予習内容の確認と知識の整理を行うとともに、予習中に見出された疑問点を解決する。

復習：学修内容を整理するとともに、事前に生じた疑問点について解決したかを確認する。

その他：新たに生じた疑問点などについては、教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

5. 準備学修

講義の項に該当する内容についてスタンダード生化学・口腔生化学 第4版(学建書院)や口腔生化学 第6版(医歯薬出版)を用いて内容を把握するとともに、予め疑問点を見出しておく(15分)。復習(20分)。

6. 評価方法

定期試験(多肢選択形式, 100点満点)にて65点以上を合格とする。追・再試験は65点以上を合格とする。再試験の評価は、65点以上を65点とし、追試験の評価は、90点以上を90点とする。本試験、追・再試験以外の試験では評価しない。

7. 教本

スタンダード生化学・口腔生化学 第4版(学建書院)

8. 参考書

口腔生化学 第6版 (医歯薬出版)

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/12	細胞外マトリックス分子 I	コラーゲンの構造, 分布	A-1-5/ 必4-ア	①
2	4/12	細胞外マトリックス分子 II	コラーゲンの合成, 壊血病, コラーゲン関連疾患	A-1-3・5, A-5-1/ 必4-ア	〃
3	4/19	細胞外マトリックス分子 III	弾性繊維・エラスチン・フィブリリン, Marfan 症候群	A-1-3・5, A-3-4/ 必4-ア	〃
4	4/19	細胞外マトリックス分子 IV	細胞接着性糖蛋白質, 種類と分布	A-1-3, A-1-5/ 必4-ア	〃
5	4/26	細胞外マトリックス分子 V	RGD 配列, 細胞外マトリックス受容体, インテグリン細胞外マトリックス分子の分解 (MMP, その他のプロテアーゼ)	A-1-3, A-1-5/ 必4-ア	〃
6	4/26	細胞外マトリックス分子 VI	グリコサミノグリカンとプロテオグリカン	A-1-5/ 必4-ア	〃
7	5/10	硬組織 I	石灰化機構① 無機質：ヒドロキシアパタイト, 石灰化機構の3つの説	A-3-1/ 必4-ア, 総Ⅱ-8-ウ	〃
8	5/10	硬組織 II	石灰化機構② 有機質：コラーゲン性石灰化, 象牙質・エナメル質の石灰化	A-3-1/ 必4-ア, 総Ⅱ-8-ウ	〃
9	5/17	硬組織 III	骨形成 (膜性骨化・軟骨性骨), 軟骨細胞の分化	A-3-1/ 必4-ア, 総Ⅱ-8-ウ	② ③
10	5/17	硬組織 IV	骨芽細胞の分化	A-3-1/ 必4-ア, 総Ⅱ-9-ウ	〃
11	5/24	硬組織 V	破骨細胞の分化, 生理的骨吸収, 炎症性骨吸収, 骨のリモデリング	A-3-1/ 必4-ア, 総Ⅱ-8-ウ	〃
12	5/24	血清カルシウム濃度の調節機構 I	血清カルシウム濃度の調節機構	A-3-1/ 必4-ア, 総Ⅱ-8-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
13	5/31	血清カルシウム濃度の調節機構 II	血清カルシウム濃度の調節機構の破綻：(原発性・続発性) 副甲状腺機能亢進症	A-3-1/ 必4-ア, 総Ⅱ-8-ウ	② ③
14	5/31	唾液腺と唾液	唾液腺の種類, 役割	A-3-3/ 必4-ア, 総Ⅱ-6-カ	〃
15	6/7	唾液の機能	唾液の成分と機能, 排泄作用	A-3-3/ 必4-ア, 総Ⅱ-6-カ	〃
16	6/7	ペリクル・プラーク	組成と機能	D-3-2/ 必5-ア, イ, 総Ⅱ-6-カ	〃
17	6/14	齲蝕 I	齲蝕の成因, プラーク (グルカン, フルクトタン), 酸産生	D-3-2/ 必4-イ, 総Ⅱ-2-イ, 総Ⅲ-2-ア	④
18	6/14	齲蝕 II	アパタイトの崩壊, ステファン曲線, 再石灰化, 酸抵抗性, 軟化象牙質	D-3-2/ 必4-イ, 総Ⅱ-2-イ, 総Ⅲ-2-ア	〃
19	6/21	細胞の情報伝達機構 I	分泌様式, 細胞内情報伝達機構① (細胞内受容体)	A-1-5/ 必4-ア, 総Ⅱ-8-ウ	①
20	6/21	細胞の情報伝達機構 II	細胞内情報伝達機構② (三量体 G タンパク質共役型受容体)	A-1-5/ 必4-ア, 総Ⅱ-8-ウ	〃
21	6/28	細胞の情報伝達機構 III	細胞内情報伝達機構③ (チロシンキナーゼ型受容体, セリンスレオニン型受容体)	A-1-5/ 必4-ア, 総Ⅱ-8-ウ, 総Ⅲ-1-イ	〃
22	6/28	細胞の老化	テロメアとテロメアーゼ	A-1-3/ 必4-ア	〃
23	7/5	細胞周期の制御機構	E2F, サイクリン, p53, RB	A-1-4/ 必4-ア	〃
24	7/5	アポトーシスの分子機構	TNF α, FasL, カスパーゼ, CAD, プログラム細胞死	A-1-4, A-5-2/ 必4-ア	〃
25	7/12	DNA の損傷と修復	DNA の損傷, 化学発癌物質, 付加体形成, 修復機構	A-1-3, A-5-6/ 必4-ア	〃
26	7/12	発癌機構	癌遺伝子, 癌抑制遺伝子, 発癌ウイルス, 多段階発癌	A-1-3/ 必4-ア・7-ウ, 総Ⅲ-1-コ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
27	7/19	癌の特性	癌の基本的性質のまとめ	A-1-3/ 必4-ア・6-ア	①
28	7/19	遺伝性疾患	遺伝, 染色体異常症, 色素沈着を伴う疾患	A-5-1/ 必4-ア	〃
29	7/26	生活習慣病の成因基盤 I	メタボリックシンドローム (診断基準, 成因), 摂食ホルモン	A-5-2/ 各II-3-ア	〃
30	7/26	生活習慣病の成因基盤 II	糖尿病 (診断基準, 成因, 病態), 動脈硬化, 痛風	A-5-2/ 各II-3-ア	〃

口腔生化学実習 (後期・1単位)

D③B-cl-3512(D3512)

科目責任者: 加藤 靖正 (生化・教授)

科目担当者: ①加藤 靖正 (生化), ②前田 豊信 (生化),
③神林 直大 (生化), ④内山 梨夏 (有床),
⑤鈴木 厚子 (非常勤)

1. 科目の概要

生化学は、物質代謝の面から生命の成り立ちを理解する学問である。そこから発生した分子生物学や遺伝子工学などは、核酸を主として扱うことに特化した学問で、生化学との深い関わりの中で発展してきた。ヒトゲノム計画終了により、染色体上の遺伝子配列が全て決定されたのも、分子生物学や遺伝子工学といった分野の進歩が大きく寄与している。そこで、本実習では、生体を構成する基本的な物質、医学的に重要な血液検査項目、さらに遺伝子の解析方法まで幅広く実体験してもらい、座学での知識をさらに深めることを目的としている。

2. 一般目標

- 1) 測定機器の取り扱い方を習得する。
- 2) 測定法の原理と特異性を理解する。
- 3) 解析方法の理論と技術を習得する。
- 4) データベースからデータを取得して応用できる。

3. 到達目標

- 1) 測定機器の基本的な取り扱いができる。
- 2) 生体構成物質の基本的な取り扱いができる。
- 3) 測定法の原理を説明できる。
- 4) 測定領域を決定するにあたり、オンラインデータベースを活用できる。
- 5) 測定した結果をまとめることができる。
- 6) 測定した値の意味を考察できる。

4. 履修の進め方

- 予 習: 教科書の該当箇所を読み、当日の実習内容に関連した項目を把握しておく。
- 実 習: 配布されるプリントに従って実習を行い、予習内容の知識を用いて考察する。
- 復 習: 学修内容を整理するとともに、疑問点などについては、教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

5. 準備学修

該当する内容についてスタンダード生化学・口腔生化学第4版 (学建書院) や口腔生化学 第6版 (医歯薬出版) を用いて内容を把握するとともに、予め疑問点を見出しておく (10分)。復習 (15分)。

6. 評価方法

筆記による実習内容と関連知識を問う試験3回の平均 (70%) とレポート (30%) により評価し、65点以上を合格とする。レポートは、項目ごとに配布された記入用紙に、実習中に記載し即日提出する。記載項目がすべて網羅されていることをミニマムリクワイアメントとする。また、欠席者は、日数に応じた課題に対するレポートの提出を必須とする。

7. 教本

スタンダード生化学・口腔生化学 第4版 (学建書院)

8. 参考書

口腔生化学 第6版 (医歯薬出版)

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	9/6	基本操作	生化学実習の諸注意, 器具の取扱い方, 測定機器の取扱い方		① ⑤
4 5 6	9/13	タンパク質 I (血清蛋白質)	血清蛋白質の分離とその意義	A-1-2/ 必4-ア	〃
7 8 9	9/20	タンパク質 II (酵素)	AST, ALT 活性の測定とその意義	A-1-2/ 必4-ア	〃
10 11 12	9/27	糖	血糖と血中ホルモン濃度測定	A-1-2/ 必4-ア	〃
13 14 15	10/4	解説講義	糖, 蛋白質, 酵素 (I, II) についてのまとめ	A-1-2/ 必4-ア	〃
16 17 18	10/11	振り返り学習: 試験①	自学習 (知識の整理): 学習効果を確認する		〃
19 20 21	10/18	石灰化 I	ALP の測定と石灰化	A-3-1/ 総Ⅱ-8-ウ	〃
22 23 24	10/25	石灰化 II	血中 Ca と P の測定	A-3-1/ 総Ⅱ-8-ウ	〃
25 26 27	11/1	唾液	ホスホホリンの検出	A-3-4/ 必4-ア, 総Ⅱ-8-イ	〃
28 29 30	11/8	解説講義	石灰化 (I, II) についてのまとめ	A-3-1・4/ 必4-ア 総Ⅱ-8-イ・ウ	〃
31 32 33	11/15	振り返り学習: 試験②	自学習 (知識の整理): 学習効果を確認する		〃
34 35 36	11/22	核酸 I	DNA の取り扱い方。PCR 法 PCR プライマー設計	A-1-3/ 必4-ア	〃
37 38 39	11/29	核酸 II	RT-qPCR によるオステオカルシン遺伝子検出	A-1-3/ 必4-ア	〃
40 41 42	12/6	解説講義	核酸 (I, II) についてのまとめ	A-1-3/ 必4-ア	〃
43 44 45	12/13	振り返り学習: 試験③	自学習 (知識の整理): 学習効果を確認する		〃

口腔病理学 (通年・4単位)

D③④B-a4-3604(D3604)

科目責任者：遊佐 淳子 (病理・准教授)

科目担当者：①遊佐 淳子 (病理), ②山崎 幹子 (病理)

※この科目は, 診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔病理学は病気の原因, 経過およびその結果生じる形態的・機能的変化を学ぶことによって, 病気の本質を理解することを目的としている。口腔病理学の講義ではまず病理学総論として, 細胞傷害と細胞の適応現象, 代謝障害, 循環障害, 炎症, 免疫異常, 遺伝性疾患と奇形, および腫瘍について講義する。病理学総論に引き続き, 齶蝕を初めとする歯牙硬組織疾患, 歯髄, 根尖部歯周組織, 辺縁部歯周組織, 顎骨, 口腔粘膜, 唾液腺等の顎口腔領域に発生する疾患について, 分類, 原因, 病理発生, 臨床像および病理組織像などを講義する。口腔病理学は臨床歯学に深く関連することから, 臨床歯学を学ぶ前に口腔病理学を充分理解しなければならない。

2. 一般目標

- 1) 疾病を総合的に理解するために病理学総論として, 細胞の傷害と細胞の適応現象, 代謝障害, 循環障害, 免疫異常, 炎症, 腫瘍, 遺伝性疾患と奇形について概略を学ぶ。
- 2) 歯科臨床における疾病を理解するために, 病理学各論 (口腔病理学) として, 齶蝕をはじめとする歯牙硬組織疾患, 歯髄, 根尖部および辺縁部の歯周組織, 顎骨, 口腔粘膜, 唾液腺等の顎口腔領域全般における疾患について, 分類, 原因, 病理発生, 臨床像および病理組織像の特徴などを学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 細胞傷害と細胞の適応現象を説明する。
- 2) 代謝障害の病変を説明する。
- 3) 循環障害の病変を説明する。
- 4) 炎症の原因と分類を説明する。
- 5) 免疫異常による病変を説明する。
- 6) 遺伝性疾患の病変を説明する。
- 7) 腫瘍の特徴と病変を説明する。
- 8) 顎口腔領域疾患の分類, 原因および病変を説明する。

4. 履修の進め方

スライド投影を用いた説明を主体とした講義を行う。また, 講義プリントを配布する。

5. 準備学修

事前学習 (30分): 第2学年の解剖学・組織学・感染免疫学で履修した事項で, 各回の口腔病理学講義に関連することを事前に復習する。

事後学習 (1時間): 講義プリント, 教本および参考書を使って各回講義の内容の理解を深める。

6. 評価方法

前期定期試験及び後期の確認試験と定期試験の各試験において65点以上で合格とする。最終評価は, 3回の平均点が65点以上を合格とする。試験形式は記述式で行う。再試験は65点未満の不合格者に実施する。再試験は上限65点, 追試験は上限80点とする。フィードバックは, 解答を開示して適宜行う。

7. 教本

坂本穆彦ら編 「標準病理学」第7版 医学書院 2023年
下野正基ら編 「新口腔病理学」第3版 医歯薬出版 2021年

8. 参考書

青笹克之 総監修 「解明 病理学」第4版 医歯薬出版 2021年

高木 實 監修 「口腔病理アトラス」第3版 文光堂 2018年

下野正基ら監修 「新編口腔外科・病理診断アトラス」医歯薬出版 2017年

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/8	病理学概論, 病因論	病理学とは何かについて説明し, 内因と外因について述べる	A-5-1/ 総Ⅲ-1-ア	①
2	4/15	細胞傷害(I)	細胞傷害のメカニズムと細胞傷害によって生じる変性について述べる	A-5-2/ 総Ⅲ-1-イ	〃
3	4/22	細胞傷害(II)	脂肪変性, 硝子変性, 石灰変性, 萎縮を説明する	A-5-2/ 総Ⅲ-1-イ	〃
4	5/13	細胞死	ネクローシスとアポトーシスの形態学的特徴を説明する	A-5-2/ 総Ⅲ-1-イ	〃
5	5/20	細胞の適応現象(I)	刺激に対する細胞の適応現象である肥大と過形成を説明する	A-5-3/ 総Ⅲ-1-エ	〃
6	5/27	細胞の適応現象(II)	刺激に対する細胞の適応現象である化生を説明する	A-5-3/ 総Ⅲ-1-エ	〃
7	6/3	組織の再生と修復	細胞の分裂周期と組織の再生, 修復を説明する	A-5-3/ 総Ⅲ-1-ウ	〃
8	6/10	肉芽組織と創傷治癒	肉芽組織の構成要素, 役割, および創傷治癒, 器質化を説明する	A-5-3/ 総Ⅲ-1-ウ	〃
9	6/17	物質代謝障害	脂質, タンパク質, 糖質, 血色素の代謝異常に基づく疾患を概説する	A-5-2/ 総Ⅲ-1-イ	〃
10	6/24	循環障害(I)	虚血, 充血, うっ血の徴候, 原因, 転帰を説明する 出血の原因, 種類, 転帰を説明する	A-5-4/ 総Ⅲ-1-オ	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
11	7/1	循環障害(II)	血栓症, 塞栓症, 梗塞, 水腫, ショック, 高血圧を説明する	A-5-4/ 総Ⅲ-1-オ	②
12	7/8	炎症(I)	炎症の定義, 原因, 分類を説明する	A-5-5/ 総Ⅲ-1-カ	①
13	7/8	炎症(II)	急性炎症および慢性炎症での組織反応の特徴を説明する 滲出性炎の各型を説明する	A-5-5/ 総Ⅲ-1-カ	〃
14	7/22	炎症(III)	肉芽腫性炎の特徴と, その代表例を説明する	A-5-5/ 総Ⅲ-1-カ	〃
15	7/22	炎症(IV)	炎症反応に関わる細胞, ケミカルメディエーターを説明する	A-5-5/ 総Ⅲ-1-カ	〃
16	9/3	感染症	各種病原体による感染症について病理学的立場から概説する	A-4-1-3/ 総Ⅲ-1-キ	②
17	9/3	免疫異常	アレルギーと自己免疫疾患を説明する	A-4-2/ 総Ⅲ-1-ク	〃
18	9/5	遺伝と疾患, 奇形	遺伝性疾患の代表例を説明し, 奇形について概説する	A-5-1/ 総Ⅲ-2-ア	〃
19	9/10	腫瘍(I)	腫瘍の定義, 形態と基本構造を説明する	A-5-6/ 総Ⅲ-1-コ	①
20	9/10	腫瘍(II)	良性腫瘍と悪性腫瘍の生物学的性状を比較説明する	A-5-6/ 総Ⅲ-1-コ	〃
21	9/12	腫瘍(III)	上皮性腫瘍の特徴と分類について説明する	A-5-6/ 総Ⅲ-1-コ	〃
22	9/17	腫瘍(IV)	非上皮性腫瘍の特徴と分類について説明する	A-5-6/ 総Ⅲ-1-コ	〃
23	9/17	腫瘍(V)	腫瘍と遺伝子異常の関連について説明する	A-5-6/ 総Ⅲ-1-コ	〃
24	9/19	歯の機械的・化学的損傷, 歯の発育異常	歯の発育異常, 咬耗症, 磨耗症, 酸蝕症, 歯折, 脱臼について説明する	D-3-2-1/ 各Ⅱ-1-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25	9/24	病理学まとめ	確認試験		①
26	9/24	歯の沈着物, 着色, 変色	沈着物としての歯垢・歯石, 歯の着色・変色について説明する	D-3-2-4/ 各II-1-ア	〇
27	9/26	齲蝕症(I)	概論(定義), 疫学, 病因について述べる	D-3-2-1/ 各II-1-ア	〇
28	10/1	齲蝕症(II)	臨床所見に基づく分類(部位, 急性と慢性, 二次齲蝕)を説明する	D-3-2-1/ 各II-1-ア	〇
29	10/1	齲蝕症(III)	エナメル質初期齲蝕の組織学的特徴を説明する	D-3-2-1/ 各II-1-ア	〇
30	10/3	齲蝕症(IV)	象牙質, セメント質各齲蝕病変の組織像を説明する	D-3-2-1/ 各II-1-ア	〇
31	10/8	象牙質・セメント質の増生と吸収	第二・第三象牙質, セメント質増殖症, 歯の内部吸収を説明する	D-3-2-1/ 各II-2-ア	②
32	10/8	歯髄の病変(I)	加齢による変化, 変性, 歯髄充血, 急性漿液性歯髄炎について説明する	D-3-2-2/ 各II-2-ア	〇
33	10/10	歯髄の病変(II)	化膿性歯髄炎(急性, 慢性)について説明する	D-3-2-2/ 各II-2-ア	〇
34	10/15	歯髄の病変(III)	潰瘍性歯髄炎, 増殖性歯髄炎について説明する	D-3-2-2/ 各II-2-ア	〇
35	10/15	根尖部歯周組織の病変(I)	根尖性歯周炎, 歯根肉芽腫, 歯根嚢胞について互いの関連性を説明する	D-3-2-2/ 各II-2-ア	〇
36	10/17	根尖部歯周組織の病変(II)	歯槽膿瘍の経発症として骨髄炎, 頭頸部膿瘍および蜂窩織炎を説明する	D-3-2-2/ 各II-2-ア	〇
37	10/22	辺縁部歯周組織の病変(I)	歯周疾患の概念, 疫学, 病因について説明する	D-3-2-3/ 各II-3-ア	〇

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
38	10/22	辺縁部歯周組織の病変(II)	プラーク性歯肉炎・慢性歯周炎の病理発生と病理組織像を詳説する	D-3-2-3/ 各II-3-ア	②
39	10/24	辺縁部歯周組織の病変(III)	非プラーク性歯肉病変, 侵襲性歯周炎, 壊死性歯周疾患について説明する	D-3-2-3/ 各II-3-ア	〇
40	10/29	辺縁部歯周組織の病変(IV)	外傷性咬合に伴う組織変化を説明する 歯肉の増殖性病変(エプーリスを含む)について説明する	D-3-2-3/ 各II-3-ア	〇
41	10/29	辺縁部歯周組織の病変(V)	辺縁性歯周炎と全身疾患との関わりについて説明する	D-5-2-3/ 各II-3-ア	〇
42	10/31	口腔領域の嚢胞(I)	嚢胞の定義, 発生メカニズム, 分類を説明する	D-3-1-5/ 各III-1-エ, 各III-2-オ	①
43	11/5	口腔領域の嚢胞(II)	歯原性嚢胞の臨床的特徴・病理組織学的特徴を概説する	D-3-1-5/ 各III-1-エ, 各III-2-オ	〇
44	11/5	口腔領域の嚢胞(III)	非歯原性嚢胞の臨床的特徴・病理組織学的特徴を概説する	D-3-1-5/ 各III-1-エ, 各III-2-オ	〇
45	11/7	口腔領域の腫瘍(I)	歯原性腫瘍の分類と各論(エナメル上皮腫など)を概説する	D-3-1-6/ 各III-1-オ, 各III-2-カ	〇
46	11/12	口腔領域の腫瘍(II)	歯原性腫瘍各論(エナメル上皮線維腫など)と顎骨腫瘍について説明する	D-3-1-6/ 各III-1-オ, 各III-2-カ	〇
47	11/12	口腔領域の腫瘍(III)	顎骨の非歯原性腫瘍と腫瘍様病変について説明する	D-3-1-6/ 各III-1-オ, 各III-2-カ	〇
48	11/14	口腔領域の腫瘍(IV)	非歯原性良性的上皮性腫瘍について説明する	D-3-1-6/ 各III-1-オ, 各III-2-カ	〇
49	11/19	口腔領域の腫瘍(V)	非歯原性悪性的上皮性腫瘍について説明する	D-3-1-6/ 各III-1-オ, 各III-2-カ	〇

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
50	11/19	口腔領域の腫瘍(VI)	非歯原性良性非上皮性腫瘍と非歯原性悪性非上皮性腫瘍について説明する	D-3-1-6/ 各Ⅲ-1-オ, 各Ⅲ-2-カ	①
51	11/21	口腔潜在的悪性疾患	口腔潜在的悪性疾患を説明する	D-3-1-6/ 各Ⅲ-1-オ	〃
52	11/26	口腔粘膜の病変(I)	水疱性病変について説明する	D-3-1-4/ 各Ⅲ-1-ク, 各Ⅲ-4-オ	〃
53	11/26	口腔粘膜の病変(II)	潰瘍性病変, 赤色病変について説明する	D-3-1-4/ 各Ⅲ-1-ク	〃
54	11/28	口腔粘膜の病変(III)	白色病変について説明する	D-3-1-4/ 各Ⅲ-1-ク	〃
55	12/3	口腔粘膜の病変(IV)	色素沈着, 感染症(細菌, 真菌, ウイルス)を概説する	D-3-1-4/ 各Ⅲ-1-ク, 各Ⅲ-4-イ	〃
56	12/3	唾液腺の非腫瘍性病変	化生, 唾石症, 唾液腺炎, シェーグレン症候群, IgG4関連疾患について説明する	D-3-1-8/ 各Ⅲ-3-ア	②
57	12/5	唾液腺腫瘍(I)	良性唾液腺腫瘍について説明する	D-3-1-8/ 各Ⅲ-3-ア	〃
58	12/10	唾液腺腫瘍(II)	悪性唾液腺腫瘍について説明する	D-3-1-8/ 各Ⅲ-3-ア	〃
59	12/10	顎骨の非腫瘍性病変	顎骨骨髓炎, 遺伝性顎骨疾患について説明する	D-3-1-3/ 各Ⅲ-2-エ	〃
60	12/12	口腔病理学まとめ			〃

口腔病理学実習 (後期・1単位)

D③④B-cl-3605(D3605)

科目責任者: 遊佐 淳子 (病理・准教授)

科目担当者: ①遊佐 淳子 (病理), ②山崎 幹子 (病理)

※この科目は, 診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

人体の病変から作製された病理組織標本を顕微鏡で観察することにより, 講義で説明された病変がどのような病理組織像を示すかを学んでいく。この実習の前半では病理学総論で学んだ各病変を諸臓器において観察し, その組織像を理解する。それをもとに後半では, 顎口腔領域の病変を観察し, 他臓器での病変との共通性や特異性を検討する。実習に際しては顕微鏡観察を行うだけでなく, 顕微鏡像のスケッチを主体とした, 実習レポートを各学生に課す。これにより各自の理解度を高めると同時に, 病変を的確に把握しているかどうかを判定する。

2. 一般目標

顎口腔領域の病変を的確に診断できるようになるために, 諸病変の病理組織像を理解し, かつ, それを説明できる能力を習得することを目標とする。

3. 到達目標

- 1) 病変の組織像を正確に理解することができる。
- 2) スケッチと文により, 病理組織像を説明することができる。
- 3) 病変の組織像を観察して, その病変の病理組織診断名を述べるすることができる。

4. 履修の進め方

病理組織像を観察したのち, 観察した組織像の説明を書いた実習レポートを作製する。

5. 準備学修

事前学修: 第2学年で講義された口腔組織学の事項で, 各回実習に関連するものを再確認する(10分)。
各回実習に関連する, 口腔病理学講義の事項を, 教本, 講義プリント, 講義ノートなどを読んで再確認する(20分)。

事後学修: 各回実習の内容を実習プリント, 実習レポート, 教本, 参考書で復習する(60分)。

6. 評価方法

病理学と口腔病理学の実習終了後に行う実習試験で評価する。実習試験(病理学30%, 口腔病理学50%)に課題レポート(20%)を加えて最終評価とし, 65点以上を合格とする。フィードバックとして, 実習試験終了後, 解説を行う。

7. 教本

北川昌伸ら 編「標準病理学」第7版 医学書院 2023年
下野正基ら 編「新口腔病理学」第3版 医歯薬出版 2021年

高木 實 監修「口腔病理アトラス」第3版 文光堂 2018年

8. 参考書

下野正基ら 監修「新編口腔外科・病理診断アトラス」 医歯薬出版 2017年

9. 授業内容と日程

(コ: コアカリ記号, 国: 国家試験出題基準, 担: 担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/5	変性, 代謝障害	硝子変性, 脂肪変性, 黄疸, 粥状動脈硬化症	A-5-2/ 総Ⅲ-1-イ	① ②

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
4 5 6	9/12	壊死, 組織の増殖	凝固壊死, 融解壊死, 肉芽組織	A-5-2, 3/ 総Ⅲ-1-イ, ウ	① ②
7 8 9	9/19	循環障害	出血, うっ血, 水腫, 梗塞	A-5-4/ 総Ⅲ-1-オ	〃
10 11 12	9/26	炎症	線維索性炎, 化膿性炎, 肉芽腫性炎	A-5-5/ 総Ⅲ-1-カ	〃
13 14 15	10/3	感染症, 免疫異常	アスペルギルス症, 巨大細胞封入体症, 橋本病, 結節性多発動脈炎	A-4-1, 2/ 総Ⅲ-1-キ, ク	〃
16 17 18	10/10	腫瘍	上皮性良性腫瘍, 上皮性悪性腫瘍, 非上皮性良性腫瘍, 非上皮性悪性腫瘍	A-5-6/ 総Ⅲ-1-コ	〃
19 20 21	10/17	実習試験(1) (病理学) 齲蝕, 歯髄炎	エナメル質齲蝕, 象牙質齲蝕, 化膿性歯髄炎, 開放性歯髄炎	D-3-2/ 総Ⅲ-2-ア, 各Ⅱ-1-ア, 各Ⅱ-2-ア	〃
22 23 24	10/24	根尖性歯周炎, 歯周病, エプーリス	歯根嚢胞, プラーク単独性歯肉炎, 慢性歯周炎, エプーリス	D-3-2/ 総Ⅲ-2-ア, 各Ⅱ-3-ア	〃
25 26 27	10/31	歯源性嚢胞	含歯性嚢胞, 歯源性角化嚢胞	D-3-1-5/ 総Ⅲ-1-ケ, 各Ⅲ-2-オ	〃
28 29 30	11/7	非歯源性嚢胞, 歯源性腫瘍(1)	鼻口蓋管嚢胞, 類表皮嚢胞, 腺腫様歯源性腫瘍, セメント質骨形成線維腫	D-3-1-5, 6/ 総Ⅲ-1-ケ, 各Ⅲ-2-オ, カ	〃
31 32 33	11/14	歯源性腫瘍(2)	濾胞型エナメル上皮腫, 網状型エナメル上皮腫, エナメル上皮線維腫	D-3-1-6/ 各Ⅲ-2-カ	〃
34 35 36	11/21	非歯源性腫瘍	乳頭腫, 扁平上皮癌, 悪性リンパ腫	D-3-1-6/ 総Ⅲ-1-コ, 各Ⅲ-1-オ	〃
37 38 39	11/28	粘膜疾患	天疱瘡, 口腔扁平苔癬, 白斑症(上皮過形成, 上皮性異形成), 口腔カンジダ症	D-3-1-4/ 総Ⅲ-1-コ 総Ⅲ-2-ア, 各Ⅲ-1-オ, ク	〃
40 41 42	12/5	唾液腺疾患	慢性硬化性唾液腺炎, 多形腺腫, 腺様嚢胞癌, 粘液瘤	D-3-1-8/ 総Ⅲ2-ア, 各Ⅲ3-ア	〃
43 44 45	12/12	実習試験(2) (口腔病理学)			〃

口腔感染免疫学Ⅱ (前期・2単位)

D③④B-a2-3701(D3701)

科目責任者: 玉井利代子 (感染・教授)

科目担当者: ①玉井利代子 (感染), ②清浦 有祐 (感染)

※この科目は, 診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とその微生物に対するヒトの免疫応答について講義を行う。特に免疫応答については2年次における口腔感染免疫学Ⅰの講義を基に掘り下げて詳しく解説する。さらにヒトの二大口腔感染症である齲蝕と歯周病の原因菌とその性状を説明する。

2. 一般目標

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とそれに対する免疫応答に関する知識を身につける。具体的には以下のことである。

- 1) 微生物感染に対する免疫応答を理解する。
- 2) 免疫応答に関係する細胞性因子を理解する。
- 3) 免疫応答に関係する液性因子を理解する。
- 4) 齲蝕と歯周病の原因菌を理解する。
- 5) 齲蝕と歯周病の起こるメカニズムを理解する。

3. 到達目標

- 1) 微生物感染に対する免疫応答を説明する。
- 2) 免疫応答に関係する細胞性因子を説明する。
- 3) 免疫応答に関係する液性因子を説明する。
- 4) 齲蝕と歯周病の原因菌を説明する。
- 5) 齲蝕と歯周病の起こるメカニズムを説明する。

4. 履修の進め方

講義形式で教科書・配布プリントを使用して履修する。講義中に, 学習者に質問し, それに対する応答を求めて授業の理解度を確認する。

5. 準備学修

毎回の講義終了時に次回の講義予定を説明するので当該部分の配布プリント・教科書を読んでおくこと (15分)。

6. 評価方法

定期試験 (50点) 及び中間試験 (50点) で評価する。65点以上を合格とする。定期試験及び中間試験の試験問題はどちらも記述式と多肢選択方式が含まれる。定期試験後に学生全員に模範解答を配布し, 学生から意見があれば対応する。追試験は100点満点で採点し, その点数を評価とする。再試験は100点満点で採点し, 65点以上は「65点」とする。

7. 教本

口腔微生物学-感染と免疫- 第7版 学建書院 2021年

8. 参考書

標準微生物学 第14版 医学書院 2021年

9. 授業内容と日程

(コ: コアカリ記号, 国: 国家試験出題基準, 担: 担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/11	補体	補体の種類と活性化経路	A-4-2-1, 2/ 必4-ア-g	①
2	4/11	補体	補体産物の役割	A-4-2-1, 2/ 必4-ア-g	〃
3	4/18	免疫担当細胞	免疫担当細胞の種類	A-4-2-1, 2, 3/ 総Ⅱ-3-ア	②
4	4/18	サイトカインⅠ	サイトカインの種類	A-4-2-1, 2, 3/ 必4-ア-g	〃
5	4/25	サイトカインⅡ	サイトカインの病態への影響	A-4-2-1, 2, 3/ 必4-ア-g	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
6	4/25	抗原認識Ⅰ	T細胞による外來性抗原の認識	A-4-2-2,3/ 総Ⅱ-3-ウ	②
7	5/9	抗原認識Ⅱ	T細胞による内在性抗原の認識	A-4-2-2,3/ 総Ⅱ-3-ウ	〃
8	5/9	アレルギーⅠ	I型・II型アレルギーのメカニズム	A-4-2-6/ 総Ⅶ-1-エ-j	〃
9	5/16	アレルギーⅡ	III型・IV型・V型アレルギーのメカニズム	A-4-2-6/ 総Ⅶ-1-エ-j	〃
10	5/16	免疫寛容	免疫寛容のメカニズム	A-4-2-5/ 総Ⅶ-1-エ-j	〃
11	5/23	自己免疫疾患と免疫不全	自己免疫疾患と免疫不全のメカニズム	A-4-2-6/ 総Ⅶ-1-エ-j	〃
12	5/23	粘膜免疫	粘膜免疫のメカニズム	A-4-2-4/ 総Ⅱ-3-オ	〃
13	5/30	ワクチンⅠ	生ワクチン	A-4-2-7/ 総Ⅱ-3-オ-a, b	〃
14	5/30	ワクチンⅡ	不活化ワクチン	A-4-2-7/ 総Ⅱ-3-オ-a, b	〃
15	6/6	免疫応答の全体像	免疫応答の全体像とその役割	A-4-2-1~7/ 総Ⅱ-3-ア~オ	〃
16	6/6	口腔微生物学概論	口腔微生物の役割と病原性	A-4-1-5/ 総Ⅱ-2-イ-a, b	〃
17	6/13	プラークの形成と口腔細菌	口腔細菌のプラーク形成における役割	A-4-1-5/ 総Ⅱ-2-イ-a, b	〃
18	6/13	口腔レンサ球菌	口腔内のレンサ球菌の種類と役割	A-4-1-5/ 総Ⅱ-2-イ-a, b	〃
19	6/20	齲蝕原性細菌Ⅰ	齲蝕の原因菌とその種類	A-4-1-5/ 総Ⅱ-2-ア-a	〃
20	6/20	齲蝕原性細菌Ⅱ	齲蝕の発症メカニズム	A-4-1-5/ 総Ⅱ-2-ア-a	〃
21	6/27	歯周病原性細菌Ⅰ	歯周病原性細菌の種類	A-4-1-5/ 総Ⅱ-2-ア-b	〃
22	6/27	歯周病原性細菌Ⅱ	歯周病原性細菌の病原性	A-4-1-5/ 総Ⅱ-2-ア-b	〃
23	7/4	口腔細菌の総括	口腔細菌の種類とその役割	A-4-1-5/ 総Ⅱ-2-イ-a, b	〃
24	7/4	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルスとその病原性	A-4-1-2,3/ 各V-2-エ-k	〃
25	7/11	口腔真菌と原虫	口腔原虫の病原性	A-4-1-2,5/ 各V-2-エ-k	〃
26	7/11	口腔ウイルスⅠ	口腔内のウイルスの種類	A-4-1-2,5/ 各V-2-エ-k	〃
27	7/18	口腔ウイルスⅡ	口腔内のウイルスの病原性	A-4-1-2,5/ 各V-2-エ-k	〃
28	7/18	口腔ウイルスⅢ	口腔内のウイルスの感染症	A-4-1-2,5/ 各V-2-エ-k	〃
29	7/25	口腔真菌・原虫・ウイルスの総括	口腔内の細菌以外の微生物の病原性	A-4-1-2,5/ 各V-2-エ-k	〃
30	7/25	薬剤耐性菌	抗菌薬に対する耐性のメカニズム	A-4-1-7,9/ 総Ⅲ-1-キ-a	〃

口腔感染免疫学実習（前期・1単位）

D③④B-cl-3702(D3702)

科目責任者：玉井利代子（感染・教授）

科目担当者：①玉井利代子（感染）、②清浦 有祐（感染）、
③眞島いづみ（感染）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔感染免疫学の講義内容を実際に自分で確認してその理解を深めることで、歯科医師としての日常に応用できる感染免疫学の知識とその手技を修得するために行う。

2. 一般目標

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とそれに対する免疫応答に関する知識と技術を身につける。具体的には以下のことである。

- 1) 細菌と真菌の取り扱いに関する手技を習得する。
- 2) 細菌と真菌の基本的な形態を理解する。
- 3) 薬剤の細菌への効果を知ること、化学療法の原理を理解する。
- 4) 齲蝕と歯周病の原因菌の性状を理解する。
- 5) ヒトの生体防御のメカニズムを理解する。

3. 到達目標

- 1) 細菌と真菌の取り扱いに関する手技を説明する。
- 2) 細菌と真菌の基本的な形態を説明する。
- 3) 薬剤の細菌への効果を知ること、化学療法の原理を説明する。
- 4) 齲蝕と歯周病の原因菌の性状を説明する。
- 5) ヒトの生体防御のメカニズムを説明する。

4. 履修の進め方

実習の内容に関する講義を行ってから、実習テキストに従って実習を行っていく。原則として当日の実習結果を指定されたレポート形式で記載して次回の実習時に提出する。

5. 準備学修

毎回の実習終了時に次回の実習予定を説明するので当該部分の配布プリント・教科書を読んでおくこと（15分）。

6. 評価方法

筆記試験と実技試験の成績（40点）、提出されたレポートの採点結果（50点）、出席点（10点）で評価する。65点以上を合格とする。筆記試験及び実習試験終了後、学生全員を対象に解説を行う。レポートは、採点後に記載内容についての講評を学生全員に対して行う。学生から意見があれば対応する。

7. 教本

口腔微生物学－感染と免疫－ 第7版 学建書院 2021年
講義・実習解説書 2024年

8. 参考書

標準微生物学 第14版 医学書院 2021年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/11	オリエンテーション	口腔感染免疫学実習の特色とその注意点	A-4-1-1/ 総Ⅲ-1キ-a	① ③
2					②
3					③
4	4/18	グラム染色	細菌のグラム染色法の理論とその実技	A-4-1-1/ 総Ⅲ-1キ-a	〃
5					〃
6					〃
7	4/25	細菌のコロニー	細菌のコロニーの観察	A-4-1-1/ 総Ⅲ-1キ-a	〃
8					〃
9					〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
10 11 12	5/9	特殊染色	特殊染色による細菌の染色	A-4-1-1/ 総Ⅲ-1キ-a	① ② ③
13 14 15	5/16	消毒と無菌試験	各種消毒薬に対する細菌の感受性	A-4-1-8/ 必11-エ-a	〃
16 17 18	5/23	抗菌薬感受性試験	各種抗菌薬に対する細菌の感受性	A-4-1-7/ 総Ⅶ-8-ウ-c	〃
19 20 21	5/30	実習筆記試験	実習内容に関する筆記試験		〃
22 23 24	6/6	歯垢細菌	歯垢中の細菌の観察	A-4-1-3/ 必4-イ-c	〃
25 26 27	6/13	齶蝕原性細菌	齶蝕原性細菌の観察	A-4-1-3/ 総Ⅱ-2-イ-a	〃
28 29 30	6/20	歯周病原性細菌	歯周病原性細菌の観察	A-4-1-3/ 総Ⅱ-2-イ-a, b	〃
31 32 33	6/27	口腔真菌	口腔真菌の観察	A-4-1-3/ 必4-イ-b	〃
34 35 36	7/4	抗原抗体反応	ゲル拡散法による沈降反応	A-4-2-2/ 必-4-ア-g	〃
37 38 39	7/11	口腔微生物のまとめ	口腔微生物の総括	A-4-1-3/ 必4-イ-c	〃
40 41 42	7/18	実習実技試験	細菌のグラム染色法の実技試験		〃
43 44 45	7/25	実習筆記試験	実習内容に関する筆記試験		〃

歯科薬理学Ⅱ（前期・2単位）

D③④B-a2-3703(D3703)

科目責任者：柴田 達也（薬理・准教授）

科目担当者：①柴田 達也（薬理）、②鈴木 礼子（薬理）、
③長岡 正博（薬理）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科薬理学Ⅰ（薬理学総論）では薬物の作用機序、薬物の生体内運命（薬物動態）、薬物の適用方法などを学修した。歯科薬理学Ⅱ（薬理学各論・歯科薬理学）では、全身疾患および歯科疾患の治療に用いられる個々の薬物について作用機序、薬物動態、副作用・相互作用などを学修する。

2. 一般目標

適切な歯科治療計画を立案し、高度な歯科医療を実践するための基盤として

- 1) 全身疾患の治療に用いられる薬物の特徴を理解する。
- 2) 歯科医療現場で使用・処方される薬物の特徴を理解する。

3. 到達目標

- 1) 薬理学各論：神経系、循環器系、呼吸器系、消化器系、血液および造血管、内分泌系、代謝系、免疫系に作用する薬物、抗腫瘍薬の特徴を説明できる。
- 2) 歯科薬理学：歯科医療現場で使用頻度が高い薬物（局所麻酔薬、抗炎症薬、鎮痛薬、抗感染症薬、唾液腺作用薬、神経疾患治療薬、消毒薬）の特徴を説明できる。

4. 履修の進め方

講義主体でスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

事前に、各回の授業内容を確認し、教科書の該当部分を読むこと（15分）。授業後は、配布プリントや教科書を見直して、毎回の授業内容を確実にすること（15分）。

6. 評価方法

試験はすべて多肢選択問題で行う。定期試験（50%）と中間試験（50%）で評価し、100点満点で65点以上を合格とする。追試験該当者は、追試験の点数が80点以上でも80点の採点結果とする。再試験該当者は、再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。試験のフィードバックは、総合演習3D、科目選択ゼミナールにおける講義や、配布物等により適宜行う。

7. 教本

鈴木邦明 監修 「現代歯科薬理学」第7版 医歯薬出版 2024

伊豆津宏二 他編「今日の治療薬2024」 南江堂 2024

8. 参考書

笠原正貴 他編「シンプル歯科薬理学」第3版 永末書店 2023

鈴木邦明 他編「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3薬理学」 医歯薬出版 2023

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/8	薬理学各論 1：末梢神経系に作用する薬物①	末梢神経系、神経伝達物質	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総Ⅶ-8-ア, イ	①
2	4/8	薬理学各論 2：末梢神経系に作用する薬物②	自律神経系に作用する薬物、筋弛緩薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総Ⅶ-8-ア, イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	4/15	薬理学各論 3：中枢神経系に作用する薬物①	全身麻酔薬、睡眠薬・抗不安薬、抗てんかん薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	①
4	4/15	薬理学各論 4：中枢神経系に作用する薬物②	抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
5	4/22	薬理学各論 5：中枢神経系に作用する薬物③	中枢神経系興奮薬、Parkinson病治療薬、認知症治療薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
6	4/22	薬理学各論 6：循環器系に作用する薬物①	高血圧治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
7	5/13	薬理学各論 7：循環器系に作用する薬物②	狭心症治療薬、利尿薬、脂質異常症治療薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
8	5/13	薬理学各論 8：呼吸器系、消化器系に作用する薬物	気管支喘息・COPD治療薬、鎮咳薬、上部・下部消化管疾患治療薬、肝疾患治療薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
9	5/20	薬理学各論 9：血液および造血器系に作用する薬物	貧血治療薬、止血線溶機構、抗血栓薬・止血薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
10	5/20	薬理学各論 10：抗腫瘍薬	抗腫瘍薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
11	5/27	薬理学各論 11：内分泌系に作用する薬物	糖尿病治療薬、性ホルモン関連薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
12	5/27	薬理学各論 12：代謝系に作用する薬物	カルシウム代謝調節機構、骨粗鬆症治療薬、ビタミン	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
13	6/3	薬理学各論 13：免疫系に作用する薬物	抗アレルギー薬、免疫抑制薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
14	6/3	薬理学各論 14：まとめ	薬理学各論のまとめ	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ, ウ	〃
15	6/10	歯科薬理学 1：局所麻酔薬①	局所麻酔薬総論	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
16	6/10	歯科薬理学 2：局所麻酔薬②	局所麻酔薬各論	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
17	6/17	歯科薬理学 3：抗炎症薬①	炎症の発症機序、ステロイド性抗炎症薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
18	6/17	歯科薬理学 4：抗炎症薬②	非ステロイド性抗炎症薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	①
19	6/24	歯科薬理学 5：鎮痛薬①	鎮痛薬総論	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
20	6/24	歯科薬理学 6：鎮痛薬②	鎮痛薬各論	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
21	7/1	歯科薬理学 7：抗感染症薬①	抗菌薬総論・抗菌薬各論1	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
22	7/1	歯科薬理学 8：抗感染症薬②	抗菌薬各論2、抗真菌薬・抗ウイルス薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
23	7/8	歯科薬理学 9：消毒薬	消毒薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ	〃
24	7/8	歯科薬理学 10：唾液腺作用薬、漢方薬	口腔乾燥の原因となる薬物、口腔乾燥症治療薬、歯科における漢方薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
25	7/8	歯科薬理学 11：神経疾患治療薬	神経痛治療薬、神経麻痺治療薬	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ウ	〃
26	7/8	歯科薬理学 12：薬物の副作用・有害反応①	薬物の一般的な副作用・有害反応	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	① ② ③
27	7/22	歯科薬理学 13：薬物の副作用・有害反応②	薬物の顎口腔領域に現れる副作用・有害反応	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
28	7/22	歯科薬理学 14：薬物相互作用①	薬力学的相互作用	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
29	7/22	歯科薬理学 15：薬物相互作用②	薬物動態学的相互作用	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃
30	7/22	歯科薬理学 16：まとめ	歯科薬理学のまとめ	A-6-2, 3, 4/ 必11コ, 総VII-8-ア, イ	〃

歯科薬理学実習（前期・1単位）

D③④B-c1-3704(D3704)

科目責任者：鈴木 礼子（薬理・准教授）

科目担当者：①鈴木 礼子（薬理）、②柴田 達也（薬理）、
③長岡 正博（薬理）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

コンピュータ・シミュレーションと標本解析を通じて、歯科薬理学Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ知識を生きた知識にすることを目的とした実習である。近年、動物愛護の精神を遵守することが強く求められており、たとえ教育目的であっても、動物実験に替わる方法によって目的が達成されるならば、積極的に代替法を採用するべきであるとされている。本実習では、実際の患者のデータや、過去に実施された動物実験のデータを再現できるコンピュータ・シミュレーション、及び、過去に骨粗鬆症モデル動物から採取した標本のデジタルデータを採用する。

2. 一般目標

超高齢社会における歯科医療現場において、個々の患者の背景を理解し、問題と課題を分析し、ニーズを抽出して解決策を立案できるようになるため、また、歯科口腔疾患に対する適切な薬物療法の計画立案と実施ができるようになるために、目の前の客観的データと、学んだ知識を結びつけて論理的に考える姿勢を身につける。

3. 到達目標

- 1) 薬物によって、適した投与方法があることを説明できる。
- 2) 有病者・高齢者における薬物動態の変化について説明できる。
- 3) 骨格筋や腸管平滑筋に作用する薬物を例に、薬物相互作用について説明できる。
- 4) 歯科診療の際に遭遇する機会の多い循環動態の変動に関わる受容体と、それらに作用する薬物について説明できる。
- 5) 卵巣摘出動物の骨形成能の評価を通じて、骨粗鬆症の病態を説明できる。

4. 履修の進め方

実習形式によって履修する。但し、理解を深めるための解説講義・問題演習の回を含む。

5. 準備学修

実習項目について、歯科薬理学Ⅰ及びⅡで使用している教科書や配布プリントの該当箇所を読んで予習しておくこと(30分)。

6. 評価方法

提出課題（40%）と実習内容に関する筆記試験（60%）で評価し、100点満点とする。規定に則り、秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～65点）、不可（64点以下）に分類し、秀、優、良、可は合格とし、不可は不合格とする。試験のフィードバックは、解説講義等により適宜行う。

7. 教本

伊豆津宏二 他編 「今日の治療薬 2024」南江堂 2024

8. 参考書

鈴木邦明 監修 「現代歯科薬理学」第7版 医歯薬出版 2024

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	4/12	薬物動態1	薬物動態に関する基礎知識の確認	A-6-3/ 必11-コ, 総VII-8-ア, イ	① ③
4 5 6	4/19	薬物動態2	健康成人の薬物血中濃度シミュレーション	A-6-3/ 必11-コ, 総VII-8-ア, イ	〃
7 8 9	4/26	薬物動態3	腎機能・肝機能低下患者の薬物血中濃度シミュレーション	A-6-3/ 必11-コ, 総VII-8-ア, イ	〃
10 11 12	5/10	薬物動態のまとめ	問題演習	A-6-3/ 必11-コ, 総VII-8-ア, イ	〃
13 14 15	5/17	薬物相互作用1	薬力学的薬物相互作用に関する基礎知識の確認	A-6-2-2.5/ 必11-コ, 総VII-8-ア, イ	〃
16 17 18	5/24	薬物相互作用2	ラット横隔膜の神経-筋標本のシミュレーション	A-6-2-2.5/ 必11-コ, 総VII-8-ア, イ	〃
19 20 21	5/31	薬物相互作用3	モルモット摘出腸管標本のシミュレーション	A-6-2-2.5/ 必11-コ, 総VII-8-ア, イ	〃
22 23 24	6/7	薬物相互作用のまとめ	問題演習	A-6-2-2.5/ 必11-コ, 総VII-8-ア, イ	〃
25 26 27	6/14	循環器系に作用する薬物1	血圧と心拍数の調節に関する基礎知識の確認	A-6-2-2.5/ 必11-コ, 総VII-8-ア, イ	〃
28 29 30	6/21	循環器系に作用する薬物2	麻酔下ラットの血圧と心拍数に影響する薬物のシミュレーション1	A-6-2-2.5/ 必11-コ, 総VII-8-ア, イ	〃
31 32 33	6/28	循環器系に作用する薬物3	麻酔下ラットの血圧と心拍数に影響する薬物のシミュレーション2	A-6-2-2.5/ 必11-コ, 総VII-8-ア, イ	〃
34 35 36	7/5	循環器系に作用する薬物のまとめ	問題演習	A-6-2-2.5/ 必11-コ, 総VII-8-ア, イ	〃
37 38 39	7/12	試験	実習内容（薬物動態、薬物相互作用、循環器系に作用する薬物）に関する筆記試験と解説	A-6-2-2.5, A-6-3/ 必11-コ, 総VII-8-ア, イ	〃
40 41 42	7/19	硬組織の薬理	卵巣摘出動物の骨形成能の評価（標本データの解析）	A-6-2-2/ 必11-コ, 総VII-8-ウ	〃
43 44 45	7/26	歯科薬理学実習のまとめ	実習総括	A-6-2-2.5, A-6-3/ 必11-コ, 総VII-8	〃

生体材料・歯科材料学Ⅱ

(前期・2単位)

D③④B-a2-3705 (D3705)

科目責任者：石田 喜紀 (材料・准教授)

科目担当者：①石田 喜紀 (材料), ②大木 達也 (材料),
③齋藤 龍一 (材料), ④覚本 嘉美 (非常勤)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科材料には金属材料、無機材料、有機材料、およびこれらを複合した材料があり、印象用、模型用、義歯床用など多様な形で応用されている。生体材料・歯科材料学は、これらの材料の成り立ちの基礎的な理論や特性および実際の取り扱い技術を学習する科目である。総論で物理学、化学、および生物学などの基礎的学力をもとに種々の歯科材料の特徴を学ぶ。各論では臨床で 사용되는材料であることを踏まえて、材料毎に所要性質、構成成分、その役割、物理化学的および機械的性質などを理解するとともに、それらの取り扱い法について学ぶ。

2. 一般目標

歯科医師となるうえで、治療に必要な機材、材料の知識を当該科目にて学修する。

3. 到達目標

- 1) 歯科修復物を構成する各種の生体材料を説明できる。
- 2) 成形加工に用いる歯科材料と器具の特性および使用方法について説明できる。
- 3) さまざまな症例に適応した歯科材料や器具が選定できる。

4. 履修の進め方

要点はプロジェクターを活用し、視覚素材を多用することで極力図案として記憶出来るようにする。また、学生は板書の内容、教科書およびレジュメにて理解を深める。各項目終了後に練習問題を配布し、各学生が自学自習後に知識の確認をさせる。

5. 準備学修

各回の授業内容項目について、教科書の該当部分を読むこと (15分)

授業内容について教科書にある図表を確認する (15分)

6. 評価方法

定期試験 (上限100点)、追試験 (上限100点)、再試験 (上限65点) で評価する。必要に応じて特別試験を行うことがある。試験問題は多肢選択式とする。

7. 教本

中嶋 裕 他 「スタンダード歯科理工学第7版」 学建書院 2019年

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	義歯用材料-1	床用アクリルレジン	B-2-2/ 総Ⅷ-6-ア	②
2	〃	義歯用材料-2	アクリルレジンによる義歯床の作製方法	B-2-2/ 総Ⅷ-6-ア, 7-ア	〃
3	4/16	義歯用材料-3	床用材料の比較	B-2-2/ 総Ⅷ-6-ア, 7-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
4	4/16	義歯用材料-4	人工歯とノンクラスプデンチャー	B-2-2/ 総Ⅷ-6-ア, 7-ア, 6-オ	②
5	4/23	義歯用材料-5	義歯裏装材, 義歯洗浄剤について	B-2-2/ 総Ⅷ-6-ア, 7-ア, 6-カ	〃
6	〃	歯科精密鑄造-1	歯科用ワックスの成分, 特性および使用方法	B-3-1/ 総Ⅷ-4-イ, 7-ウ-a	①
7	5/7	歯科精密鑄造-2	埋没材の種類, 性質, 役割および操作法	B-3-1/ 総Ⅷ-7-ウ-a	〃
8	〃	歯科精密鑄造-3	歯科精密鑄造の基礎理論	B-3-1/ 総Ⅷ-7-ウ-a	〃
9	5/14	歯科精密鑄造-4	歯科精密鑄造の工程と器械	B-3-1/ 総Ⅷ-7-ウ-a	〃
10	〃	歯科精密鑄造-5	鑄造体の製作工程-埋没法, 鑄造法	B-3-1/ 総Ⅷ-7-ウ-a	〃
11	5/21	歯科精密鑄造-6	鑄造欠陥の成因とその対策	B-3-1/ 総Ⅷ-7-ウ-a	〃
12	〃	歯科精密鑄造-7	鑄造欠陥の成因とその対策	B-3-1/ 総Ⅷ-7-ウ-a	〃
13	5/28	歯冠用材料-1	歯科用陶材の臨床応用と所要性質	B-3-4/ 総Ⅷ-6-イ	〃
14	〃	歯冠用材料-2	歯科用陶材の理工学的性質	B-3-4/ 総Ⅷ-6-イ	〃
15	6/4	歯冠用材料-3	陶材焼付鑄造冠の特性と作製法	B-3-4/ 総Ⅷ-6-イ, 7-イ	〃
16	〃	歯冠用材料-4	歯科用陶材冠の作製法-1	B-3-4/ 総Ⅷ-6-イ, 7-イ, エ	〃
17	6/11	歯冠用材料-5	歯科用陶材冠の作製法-2	B-3-4/ 総Ⅷ-6-イ, 7-イ, エ	〃
18	〃	歯冠用材料-6	硬質レジン前装冠の特性	B-3-4/ 総Ⅷ-6-エ, 7-エ	〃
19	6/18	歯科用合着材-1	歯科用合着材の用途	B-2-3/ 総Ⅷ-9-ア	③
20	〃	歯科用合着材-2	歯科用合着材の成分と特性-1	B-2-3/ 総Ⅷ-9-ア	〃
21	6/25	歯科用合着材-3	歯科用合着材の成分と特性-2	B-2-3/ 総Ⅷ-9-ア	〃
22	〃	歯科用合着材-4	歯科用合着材の成分と特性-3	B-2-3/ 総Ⅷ-9-ア	〃
23	7/2	歯科用合着材-5	接着の理論	B-2-3/ 総Ⅷ-9-ア, 8-ウ	〃
24	〃	歯内療法関連材料-1	裏層材, 覆髄材および根管充填材の特性-1	B-2-5/ 総Ⅷ-5-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25	7/9	歯内療法関連材料-2	裏層材, 覆髄材および根管充填材の特性-2	B-2-5/ 総Ⅷ-5-ウ	③
26	7/9	歯内療法関連材料-3	支台築造用材料	B-2-5/ 総Ⅷ-5-ウ	〃
27	7/16	生体材料	組織工学用材料の種類と特性	B-2-6/ 総Ⅷ-11	①
28	〃	歯科用インプラント	歯科用インプラントの概要と理工学的性質	B-2-6/ 総Ⅷ-11	④
29	7/23	修復物の研磨-1	研磨に関する理論, 研磨用工具の種類と特性	B-3-2/ 総Ⅷ-2	②
30	〃	修復物の研磨-2	切削研磨用機械の種類と特性	B-3-2/ 総Ⅷ-2	〃

生体材料・歯科材料学実習

(前期・1単位)

D③④B-cl-3706(D3706)

科目責任者: 石田 喜紀 (材料・准教授)

科目担当者: ①石田 喜紀 (材料), ②大木 達也 (材料),
③齋藤 龍一 (材料), ④覚本 嘉美 (非常勤),
⑤泉 俊郎 (非常勤)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科理工学という科目は単に材料の特性や機器の構造を学ぶのみではない。歯科補綴学, 保存修復学をはじめ, その他臨床で使用する材料や機器を, 化学的法則に基づいてより効率的に取り扱う手法を学ぶことにある。したがって, 歯科理工学の実習では講義で学んだ理論を実証し, 講義で理解が不十分であったところを実際に自らの手で扱い, 目で観察することによってその材料の基本的な性質および正しい使用法を学ぶ。

2. 一般目標

歯科臨床で取り扱う材料と器材を正しく使用するために, その特性と操作法を理解する。

3. 到達目標

- 1) 印象材と模型材の種類および特性を理解し操作できる。
- 2) 義歯床と鋳造物について関連材料の特性を理解し, 操作法を習得する。
- 3) 切削・研磨用材料の種類および特性を理解する。
- 4) 成形修復材および歯科用セメントの種類と特性を理解し操作できる。
- 5) 金属の熱処理について操作法と性質の変化を理解する。

4. 履修の進め方

実習書を基にビデオ映像や実技のデモなどで説明し, 実際に材料・器具に触れる。実習を進めるにあたりチェック項目を設け, 各項目で担当教員がチェックを行う。また, 知識の習得と技術の向上のために試験を行う。実習中は疑問点を聞き出し解説を行う。また, 小試験および総合試験のフィードバックは科目選択ゼミナールなどで解説を行う。

5. 準備学修

実習内容や使用機材を実習書にて確認し, 準備することで実習をスムーズに行えるようにする (10分)。また, 実習書の各項目に記載されている「実習の目的」について教科書や講義ノートを基にまとめる (10~20分)。

6. 評価方法

①実習の各項目に対するチェック, 製作物の提出および評価 (40%), ②小試験 (MCQ) (20%), ③総合試験 (MCQ) と実技試験 (40%) により評価する。①+②+③の合計で65点以上を合格とする。

7. 教本

①中島 裕 他 編「スタンダード歯科理工学第7版」学建書院 2019

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	4/9	オリエンテーション，印象材・模型材(1)	器材チェック，印象用関連機材の操作法	B-3-2/ 総Ⅷ-3-イ	① ⑤
4 5 6	4/16	印象材・模型材(2)	口腔模型の印象採得と模型製作	B-2-1/ 総Ⅷ-3-イ，エ，オ，4-ア，イ	〃
7 8 9	4/23	印象材・模型材(3)	義歯床用模型の製作	B-2-1/ 総Ⅷ-4-ア	〃
10 11 12	5/7	印象材・模型材(4)	支台歯原形の印象採得と作業用模型製作	B-2-1/ 総Ⅷ-3-イ，エ，オ，4-ア，イ	〃
13 14 15	5/14	床用レジン-1	ワックスパターンの作製，人工歯の配列	B-3-1/ 総Ⅷ-4-イ，6-オ	〃
16 17 18	5/21	床用レジン-2	埋没と流口	B-2-2/ 総Ⅷ-7-ア	〃
19 20 21	5/28	床用レジン-3	レジン混和物の填入と重合	B-2-2/ 総Ⅷ-7-ア	〃
22 23 24	6/4	床用レジン-4	適合性の測定と重合体の研磨	B-2-2/ 総Ⅷ-2-ア，イ，6-ア	〃
25 26 27	6/11	歯科精密鑄造-1	ワックスパターンの製作	B-3-1/ 総Ⅷ-4-イ	〃
28 29 30	6/18	歯科精密鑄造-2	ワックスパターンの埋没	B-2-1/ 総Ⅷ-7-ウ	〃
31 32 33	6/25	歯科精密鑄造-3	鑄造操作と鑄造体の掘り出し，小試験①	B-2-1/ 総Ⅷ-7-ウ	〃
34 35 36	7/2	歯科精密鑄造-4	適合性の測定と鑄造体の研磨	B-2-1/ 総Ⅷ-2-ア，イ，6-ウ	〃
37 38 39	7/9	成形修復材	成形修復材の充填と硬さの測定	B-2-1/ 総Ⅷ-5-ア，7-ア	〃
40 41 42	7/16	合着用セメント，金属の熱処理	セメントの被膜厚さの測定，鑄造体の熱処理，小試験②	B-2-3/ 総Ⅷ-7-ウ，9-ア	〃
43 44 45	7/23	実習試験	総合試験，実技試験	B-2-1~3， B-3-1~4/ 総Ⅷ-2~9	〃

口腔衛生学（後期・2単位）

D③B-a2-3513(D3513)

科目責任者：廣瀬 公治（衛生・教授）

科目担当者：①廣瀬 公治（衛生），②小林美智代（衛生），
③南 健太郎（衛生）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔衛生学は，他の臨床歯科医学と異なり，学問の出発点が疾病ではなく健康にあること，そして，その対象を集団を主としているところに大きな特徴を持つ。また，歯科医師法第1条にあるように，歯科医師は保健指導を掌り，公衆衛生の向上・増進に寄与するとある。よって，この基礎となる本科目では，前期では主に2年生で履修した衛生学の応用的内容を実施することでより実践的な地域保健について学ぶ。そして後期は主に口腔疾患の予防を目的とした予防歯科学について学ぶ。

2. 一般目標

歯科医師として具備すべき公衆衛生学・口腔衛生学の知識を履修し，地域口腔保健支援及び予防歯科診療を根拠に基づき適切に対応できる基礎を修得する。

3. 到達目標

- 1) 健康の概念と予防の段階を理解している。
- 2) 疫学の研究方法とその活用を理解している。
- 3) 感染症の成り立ちと予防対策を理解している。
- 4) 公害や地球環境破壊と健康との関りを理解している。
- 5) 食品衛生と栄養摂取基準を理解している。
- 6) 人口構造の変化と疾病構造との関連を理解している。
- 7) 地域保健法と健康増進法の実施事業等について理解している。
- 8) 地域保健（母子・学校・成人・老人・産業・精神・障害者）のあらましを理解している。
- 9) 口腔疾患の成り立ちとその予防法を理解している。
- 10) 口腔疾患の予防をライフコースアプローチの視点をもって理解している。
- 11) 国際保健協力機構について理解している。
- 12) 口腔疾患の成り立ちと予防法を理解している。
- 13) 口腔保健支援活動の実施内容と方法およびその法的枠組みを理解している。
- 14) 国家統計とその活用方法を理解している。

4. 履修の進め方

教科書を傍用した講義で履修する。

5. 準備学修

シラバスを参照し，教科書の該当頁を読んでおくこと（15分）。

6. 評価方法

定期試験が65点以上で合格とする。定期試験を欠席した者及び65点未満の者には追・再試験を行い，その得点が65点以上で合格とする。試験形式は多肢選択式問題及び計算問題とする。追試験は素点を評価点とする。再試験は65点以上を65点として評価する。

7. 教本

末高武彦 他 編 スタンダード衛生学・公衆衛生学 学建書院 2022

安井利一 他 編 口腔保健・予防歯科学 医歯薬出版 2023

8. 参考書

医療情報科学研究所 編 公衆衛生がみえる メディックメディア 2023

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	口腔衛生学概論	健康の定義, 健康保持増進対策, PHCとHP, 国際保健協力, 健康増進法と健康日本21 (第二次), 健康の社会的決定要因, ICF, 地域健康指標	C-4-1, C-5-2, 3, 5, C-6-2-3/必2-ア, 必3-ア, 総I-1-ア	①
2	9/4	疫学	疫学の概念と疫学要因, 交絡とバイアス, 疾病・死亡の指標, 記述疫学	C-6-1-1/総I-6-ア, イ	ク
3	9/11	疫学	患者対照研究, コホート研究, 生態学的研究	C-6-1-1/総I-6-ア, イ	ク
4	9/11	疫学	介入研究(RCT)とEBM, メタアナリシス, システマティックレビュー, スクリーニングテスト	C-6-1-1, 2/総I-6-ア, イ	ク
5	9/18	疫学	スクリーニングテスト	C-6-1-2/総I-6-ア	ク
6	9/18	疾病予防と健康管理	疾病の自然史と予防の3相5段階, 感染症の予防, 感染症関連法規, 院内感染予防, B型肝炎訴訟, NCD 予防対策	C-5-1, 4/必2-ア, 総I-1-ア, 総I-7-ア	ク
7	9/25	疾病予防と健康管理, 環境衛生	地球環境破壊と保全条約, 典型公害 (水俣病, イタイタイ病, 四日市ぜんそく)	C-4-5/総I-9-ア	ク
8	9/25	食品衛生	食中毒	総I-8-ア, イ	ク
9	10/2	地域保健	地域保健法 (保健所と市町村保健センター), 健康増進法と市町村保健事業, 精神保健, 歯科口腔保健の推進に関する法律	C-4-3-1/必3-イ, 総I-1-エ, オ	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
10	10/2	地域保健	地域保健の進め方 (ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ), ライフコースアプローチ, PDCA サイクル, 費用効果分析, 費用便益分析, 費用効用分析	C-4-3-1/必3-イ, 総I-1-エ, オ	①
11	10/9	母子保健	母子保健法, 児童虐待	C-4-3-1, 2, 4, 5/必3-イ, 総I-2-ア	②
12	10/9	母子歯科保健	妊産婦歯科健康診査, 1歳6か月児歯科健康診査, 3歳児歯科健康診査	C-4-3-1, 2/必3-イ, 総I-2-ア	ク
13	10/16	学校保健	学校保健安全法, 学校保健活動, 学校保健の3管理, 学校保健関係者, 学校歯科医の職務の準則	C-4-3-1/必3-イ, 総I-2-イ	ク
14	10/16	学校歯科保健	学校保健管理, 学校歯科健康診断	C-4-3-1/必3-イ, 総I-2-イ	ク
15	10/23	産業保健	労働安全衛生法, 労働衛生3管理	C-4-3-1, C-5-7/必3-イ, 総I-2-ウ	①
16	10/23	産業保健	トータルヘルスプロモーションプラン, 職業性疾患	C-4-3-1/必3-イ, 総I-2-ウ	ク
17	10/30	産業歯科保健 国際保健協力	産業歯科医による特殊健康診断, 労働者災害補償保険, SDGs, JICA, ODA, UHC	C-4-3-2, C-7-3, 4, 5/必3-イ, 総I-2-ウ, 総I-4-ア	ク
18	10/30	成人・老人歯科保健	健康増進法事業, 特定健康診査における標準的な質問票, 介護予防の基本チェックリスト, オーラルフレイル, 禁煙支援	C-4-3-4, 5/必3-イ, 総I-2-エ, オ, カ	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
19	11/6	国家統計	歯科疾患実態調査, 国民生活基礎調査, 患者調査, 医師・歯科医師・薬剤師調査, 国民健康・栄養調査, ICD	C-6-2-2/ 総I-6-ウ	②
20	11/6	口腔環境	口腔の発育と唾液の機能, 口腔内不潔物(ペリクル)	C-4-3-1/ 必3-ウ, エ, 総II-2-イ, 各II-ア	①
21	11/13	口腔環境	口腔内不潔物(プラーク, 歯石, 色素沈着, マテリアアルバ)		〃
22	11/13	歯口清掃	ブラッシング法, 歯磨剤	D-3-2-1, 4, D-5-1-1~6/ 必3-ウ, エ	〃
23	11/20	歯科疫学指標	歯口清掃関連指標(OHI, OHI-S, PHP, PCR, PII)	C-6-1-3/ 総I-6-エ	③
24	11/20	歯科疫学指標	硬組織関連指標(DMF, CFI, 齲蝕抑制率, RCI)	C-6-1-3/ 総I-6-エ	〃
25	11/27	歯科疫学指標	歯周組織関連指標(CPI, PMA, GI), その他(DAI)	C-6-1-3/ 総I-6-エ	〃
26	11/27	齲蝕の予防	齲蝕の疫学, 齲蝕病因論, 齲蝕活動性試験	C-6-1-3, D-5-1-4-5/ 総I-6-エ, 各II-1-ア, イ	②
27	12/4	齲蝕の予防	フッ化物の基本, フッ化物の応用	D-5-1-2/ 必3-ウ, 各II-1-イ	〃
28	12/4	齲蝕の予防	フッ化物の応用と急性・慢性フッ素中毒, フィッシャーシーラント	D-5-1-2/ 必3-ウ, 各II-1-イ	〃
29	12/11	歯周病の予防	歯周病の原因と修飾要因, 歯周病と全身疾患, 喫煙の害	D-5-1-1, D-5-2-3-1/ 各II-3-ア, イ	①
30	12/11	口臭の予防	口臭の原因と予防・治療	D-5-1-1/ 必9-オ, 総VI-1-ア, 各III-3-イ, 各III-5-イ	〃

口腔衛生学実習 (後期・1単位)

D③B-cl-3514(D3514)

科目責任者: 廣瀬 公治 (衛生・教授)

科目担当者: ①廣瀬 公治 (衛生), ②瀬川 洋 (衛生),
③南 健太郎 (衛生), ④小林美智代 (衛生),
⑤相馬 親良 (非常勤)

※この科目は, 診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

本実習では, 人間の健康に影響を与える環境要因の測定と, 地域歯科保健活動の主軸をなす歯科疫学指標の収集の実際と, さらには予防歯科臨床で多用される小窩裂溝填塞とフッ化物応用について実技を通しその基本を習得することを目的に実施する。

2. 一般目標

環境要因を測定するための基本的技能と, 集団における口腔疾患の状況を正しく分析・評価し, 疾病予防のための方策を立案するための基本的技能を習得する。

3. 到達目標

- 1) 環境測定を行い評価できる。
- 2) 口腔内を適切な指標で評価できる。
- 3) 口腔清掃状況を評価し適切な指導を実施できる。
- 4) フッ化物応用と小窩裂溝填塞の基本的な手技を実施できる。
- 5) 統計分析の意義を説明し解析を実施できる。
- 6) 各測定資料から個人及び集団の口腔内状況を評価し予防対策を立案できる。
- 7) 実習で習得したことをスライドにまとめ発表できる。

4. 履修の進め方

実習実技についての説明, 実技を取り入れた実習及び実習成果のスライドを作成し発表, この3つを柱として履修する。

5. 準備学修

実習項目に関連する項目について, 実習書, 教科書及び講義ノートを読むこと (15分)。

6. 評価方法

出席 (10%), レポート (20%), 効果測定 (70%) の合計で65点以上を合格とする。

出席点は次に定める方法に従う。

- 45回全出席 : 10点
- 42回出席 : 6点
- 39回出席 : 3点
- 36回出席 : 0点
- 35回以下 : 未修了

7. 教本

荒川浩久 他 編 「生活と健康-測定と評価法-」 学建書院 2021.

8. 参考書

末高武彦 他 編 スタンダード衛生学・公衆衛生学 学建書院 2022

安井利一 他 編 口腔保健・予防歯科学 医歯薬出版 2023

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	9/4	環境衛生実習 オリエンテー ション	環境衛生実習 概説	C-4-5/ 総I-9-ア	① ⑤
4 5 6	9/11	1. 水の衛生 2. 空気の衛 生 3. 騒音と疲 労	3グループ編 成で、1～3 の内容を3週 ローテーショ ンで行う。	C-4-5/ 総I-9-ア	〃
7 8 9	9/18	1. 水の衛生 2. 空気の衛 生 3. 騒音と疲 労	3グループ編 成で、1～3 の内容を3週 ローテーショ ンで行う。	C-4-5/ 総I-9-ア	〃
10 11 12	9/25	1. 水の衛生 2. 空気の衛 生 3. 騒音と疲 労	3グループ編 成で、1～3 の内容を3週 ローテーショ ンで行う。	C-4-5/ 総I-9-ア	〃
13 14 15	10/2	環境衛生実習 効果測定	効果測定	C-4-5/ 総I-9-ア	〃
16 17 18	10/9	予防歯科実習 オリエンテー ション	予防歯科実習 概説	D-5-1/ 必3-ウ,エ, 各II-1-イ	〃
19 20 21	10/16	齲蝕活動性試 験	宿主要因と寄 生体要因につ いての検査	D-5-1/ 必3-ウ,エ, 各II-1-イ	〃
22 23 24	10/23	1. 小窩裂溝 填塞 2. フッ化物 基礎実習	2グループ編 成で1,2の 内容をロー テーションで 行う	D-5-1/ 必3-ウ,エ, 各II-1-イ	〃
25 26 27	10/30	口腔診査(硬 組織), DMF 関連, 計算演 習	DMF 関連指 標	C-6-1-3/ 必9-ア, 総I-6-イ	〃
28 29 30	11/6	口腔診査(歯 周組織), 歯 周組織関連指 標, 計算演習	PMA, GI	C-6-1-3/ 必9-ア, 総I-6-イ	〃
31 32 33	11/13	口腔診査(歯 口清掃)	OHI, OHI-S, PHP, PCR, PII	C-6-1-3/ 必9-ア, 総I-6-イ, 各II-1-イ	〃
34 35 36	11/20	保健統計演習	疫学統計実習	C-6-2,4/ 総I-6-イ,ウ	④
37 38 39	11/27	口腔内総合評 価(個人・集 団)演習	総合評価	D-5-1/ 必3-ウ,エ, 総I-6-イ, 各II-1-イ	① ⑤
40 41 42	12/4	口腔内総合評 価効果測定	効果測定	C-6-2,4, D-5-1/ 必3-ウ,エ, 総I-6-イ,ウ, 各II-1-イ	〃
43 44 45	12/11	全実習の総括 および再効果 測定	統括演習, 再 効果測定	実施全範囲	〃

保存修復学 I (後期・2単位)

D③④C-a2-3802(D3802)

科目責任者：山田 嘉重(修復・教授)

科目担当者：①山田 嘉重(修復), ②菊井 徹哉(修復)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

齲蝕、歯の破折および摩耗などにより生じた自然治癒しない硬組織実質欠損に対して、病変の進行を阻止して歯の生理学的機能を回復させるとともに、審美的にも調和する生体親和性のある修復方法を研究する分野が保存修復学である。

保存修復学 I では総括的項目や各種修復法に共通する原理と技術、特に齲蝕の診断、処置方法、窩洞形成の理論ならびにその問題点を講義する。板書、スライド、配布資料を用いた講義が主体となる。

2. 一般目標

齲蝕、非齲蝕性硬組織疾患による実質欠損を適切に治療するために、基礎知識として疾患の診断と処置方法、窩洞および各種修復方法に共通する原理や基本的技術の理論を習得する。ディプロマ・ポリシーの2：探求力と解決力、4：知識と診断能力を養い各種硬組織疾患の診断や処置法など歯科治療の基礎となる項目を確実に履修することを目標とする。

3. 到達目標

- 1) 齲蝕、非齲蝕性硬組織疾患の病因と病態が説明できる。
- 2) エナメル質齲蝕、象牙質齲蝕、根面齲蝕の診査方法および治療方法が説明できる。
- 3) 切削機器、器具の名称と用途が説明できる。
- 4) 窩洞の分類、特徴および形成方法が説明できる。
- 5) 象牙質知覚過敏症、変色歯、破折歯の処置法が説明できる。
- 6) 歯髄障害の原因と対策を説明できる。
- 7) コンポジットレジン修復法の特徴・適応症や処置手順が説明できる。
- 8) グラスアイオノマーセメント修復法の特徴・適応症や処置手順が説明できる。

4. 履修の進め方

- 1) 講義は教科書の内容をシラバスの予定に従って行う。
- 2) 板書、スライド、配布資料等を使用して教科書の内容をよりわかりやすく解説する。
- 3) 学生は板書、スライドおよび配付資料に沿って独自に授業ノート等を作成し、要点および追加事項を記入する。
- 4) 学生は理解が不十分な点について、適宜教員に質問して理解を深める。
- 5) 学生の授業の予習・復習の確認のため、授業の前後で小試験を行うこともある。

5. 準備学修

シラバスを確認して、授業内容について事前に教科書を用いて予習を行う(30分)。授業終了後、講義ノートや配布資料を用いてその日のうちに当日の講義内容の要点をノートにまとめて復習する(30分から1時間程度)。

6. 評価方法

定期試験で評価する。定期試験(MCQ形式40～50問)で65点以上の得点で合格とする。

追・再試験については、追試験は上限100点、再試験は上限65点とし、追・再試験ともに65点以上の得点で合格とする。

7. 教本

田上順次、奈良陽一郎、山本一世、斎藤隆史(編)「保存修復学21 第6版」永末書店 2022年版

8. 参考書

千田 彰, 宮崎真至, 林美加子, 向井義晴, 斎藤隆史 (編)
「保存修復学 第7版」 医歯薬出版 2019年版

9. 授業内容と日程

(コ: コアカリ記号, 国: 国家試験出題基準, 担: 担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/2	保存修復法概論①	保存修復学の概念と目的, 歴史, 修復材料の一般的性質, 治療器械の変遷	D-3-2-1/ 必-12-ア, 総Ⅷ-2-ア	①
2	9/2	保存修復法概論②	保存修復の種類と適応症, 歯の構造と機能, 硬組織の加齢に伴う変化	D-3-2-1/ 総Ⅱ-5-ア-c, 総Ⅱ-7-エ-a,	〃
3	9/9	硬組織疾患①	齲蝕の病因と病態①, エナメル質齲蝕・象牙質齲蝕	D-3-2-1/ 必-6-イ-a, 総Ⅲ-2-ア-b, 各Ⅱ-1-ア-a	〃
4	9/9	硬組織疾患②	齲蝕の病因と病態②, 根面齲蝕・二次齲蝕	D-3-2-1/ 必-6-イ-a 総Ⅲ-2-ア-b, 各Ⅱ-1-ア-a	〃
5	9/30	硬組織疾患③	非齲蝕性硬組織疾患, 変色歯, 象牙質知覚過敏	D-3-2-1/ 必-7-イ-b 総Ⅲ-2-ア-b, 各Ⅱ-1-ア-d	②
6	9/30	診断と治療計画①	医療面接, 硬組織疾患の検査法, 問題点の抽出	E-5-3-1/ 総Ⅴ-1-ア, Ⅵ-1-ア-a, 各-4-2-ア, 各-4-2-エ	〃
7	9/30	診断と治療計画②	治療計画, インフォームドコンセント	E-5-3-1/ 総Ⅶ-1-ア, 各-4-2-ア, 各-4-2-エ	〃
8	9/30	硬組織切削	診療設備, 姿勢, 切削器具, 医療用レーザー等	B-3-2/ 総Ⅷ-2-ア-b, 総-7-9-エ, 各Ⅱ-1-ア-a	〃
9	10/7	齲蝕の処置①	初期エナメル質齲蝕, エナメル質齲蝕の処置法	E-5-3-1/ 必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各Ⅱ-1-ウ-a	①
10	10/7	齲蝕の処置②	象牙質齲蝕, 根面齲蝕の処置法	E-5-3-1/ 必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
11	10/21	窩洞①	窩洞の分類, 窩洞の構造と各部の名称, 窩洞の具備すべき条件①	E-5-3-1/ 必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各Ⅱ-1-ウ-a	②
12	10/21	窩洞②	窩洞の具備すべき条件②, 接着性修復と非接着性修復での窩洞の違い	E-5-3-1/ 必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
13	10/28	修復時の留意点①	象牙質・歯髄複合体の保護, 裏層・覆髄および仮封	B-2-1/ 必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各Ⅱ-1-ウ-a	①
14	10/28	修復時の留意点②	修復物の具備すべき条件	B-2-1/ 必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
15	10/28	齲蝕の処置③	回転切削器具を使用しない齲蝕処置	E-5-3-1/ 必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
16	10/28	非齲蝕性硬組織疾患の処置①	くさび状欠損, 咬耗症	E-5-3-1/ 必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
17	11/11	非齲蝕性硬組織疾患の処置②	摩耗症, 酸蝕症, 象牙質知覚過敏症	E-5-3-1/ 必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
18	11/11	非齲蝕性硬組織疾患の処置③	変色歯, 形成異常, 破折歯の処置	E-5-3-1/ 必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
19	11/18	直接修復①	従来型ガラスアイオノマーセメント修復①	E-5-3-1-3/ 必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-b, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
20	11/18	直接修復②	従来型ガラスアイオノマーセメント修復②	E-3/ 必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
21	11/25	歯冠修復法各論	歯冠修復方法の分類・特徴, 治療の前準備・修復補助法	E-5-3-1/ 各Ⅱ-1-ウ-a	②
22	11/25	歯科の接合技術①	歯科用セメントの種類と用途	B-2-4/ 必-11-セ-f, 総Ⅷ-8, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
23	11/25	歯科の接合技術②	歯質接着システムの分類と接着補助材	B-2-4/ 必-11-セ-f, 総Ⅷ-8, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
24	11/25	直接修復③	コンポジットレジン修復①	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
25	12/2	直接修復④	コンポジットレジン修復②	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃
26	12/2	直接修復⑤	コンポジットレジン修復③	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
27	12/9	直接修復⑥	コンポジットレジン修復④	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ-a	②
28	12/9	直接修復⑦	コンポジットレジン修復⑤	E-5-3-1-1/ 必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-a, 各Ⅱ-1-ウ-a	ク
29	12/9	直接修復⑧	レジン添加型 グラスアイオ ノマーセメン ト修復①	E-5-3-1-3/ 必-11-ケ-b, 総Ⅷ-5-ア-b, 各Ⅱ-1-ウ-a	ク
30	12/9	直接修復⑨	レジン添加型 グラスアイオ ノマーセメン ト修復②	E-3/ 必-11-ケ-b, 総-7-2-ア-b, 各Ⅱ-1-ウ-a	①

冠橋義歯補綴学Ⅰ（後期・1単位）

D③④C-a1-3803(D3803)

科目責任者：羽鳥 弘毅（冠橋・教授）

科目担当者：①羽鳥 弘毅（冠橋）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

冠橋義歯補綴は歯科治療の中でも高頻度な治療方法であることから、安全かつ確実な治療を施すためには、顎口腔系諸器官の機能や形態に関する知識の修得のみならず、使用する機械の特徴や材料の性質についても把握する必要がある。かつ歯学全般の幅広い知識と熟練した技能が必要とされる。そこで、冠橋義歯補綴学Ⅰでは冠橋義歯の歴史と総論およびクラウンの種類、ブリッジの種類と構成などについて教授する。

2. 一般目標

歯冠部歯質欠損および少数歯欠損による咬合・咀嚼障害や審美障害を治療できるようになるために、クラウンおよびブリッジを応用した補綴法に必要な知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) クラウンブリッジの歴史を説明する。
- 2) 冠橋義歯補綴学の意義と目的を説明する。
- 3) クラウンブリッジの要件を説明する。
- 4) クラウンの種類を説明する。
- 5) ブリッジの種類と構成を説明する。
- 6) インフォームドコンセントの考え方や成立要件を説明できる。
- 7) 冠橋義歯補綴治療に先立ち実施する前処置を説明できる。
- 8) 支台歯形成の目的と原則、手順を説明できる。

4. 履修の進め方

教科書を中心としたスライドによる視覚素材を用いて講義する。理解度を確認するために適宜試験問題を配付する。この試験問題の解答はユニパに掲示する。

5. 準備学修

予習として、シラバスを確認して、今回の講義内容について教科書を読むこと。(30分)

復習として、教科書とスライドデータを確認して講義内容を十分に理解すること。(60分)

6. 評価方法

後期の定期試験において点数が65点以上を合格とする。定期試験は多肢選択式問題と記述式問題の筆記試験とする。追試験を実施する場合は点数の上限を90点とする。点数が65点未満の場合には再試験を行う。点数が65点未満の再試験該当者は、再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。

7. 教本

矢谷博文ら 編「クラウンブリッジ補綴学第6版」医歯薬出版

石橋寛二ら 編「クラウンブリッジテクニック第2版」医歯薬出版

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	クラウンブリッジ補綴学の意義と目的	クラウンブリッジ補綴学の目的と意義、利点と欠点	E-5-3/ 各Ⅳ-3-ア	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
2	9/11	咬合・歯周組織の正常像	咬合・歯周組織の正常像	E-5-3/ 必5-ア	①
3	9/18	咬合, 咬合異常・咀嚼障害	咬合, 咬合異常・咀嚼障害	E-5-3/ 各IV-1-ア, イ,ウ,エ,オ	〃
4	9/25	診察・診断	医療面接と診察, 検査	E-5-3/ 各IV-2-ア, イ,ウ	〃
5	10/2	治療計画を左右する因子	口腔内因子, 全身の因子, 社会・心理学的因子	E-5-3/ 各IV-2-エ	〃
6	10/9	クラウンブリッジの要件	生物学的・機能的・力学的・審美的・材料学的要件	E-5-3/ 各IV-3-ア	〃
7	10/16	クラウンの種類①	全部被覆冠の種類と分類	E-5-3/ 各IV-3-ア	〃
8	10/23	クラウンの種類②	部分被覆冠の種類と分類	E-5-3/ 各IV-3-ア	〃
9	10/30	ブリッジの種類と構成	ブリッジの臨床的意義, 適応症, 種類, 構成要素	E-5-3/ 各IV-3-ア	〃
10	11/6	クラウンブリッジの設計	支台歯, 欠損歯, 支台装置とポンティックの選択	E-5-3/ 各IV-3-ア	〃
11	11/13	インフォームドコンセント前処置①	基本理念, プロセス, 治療の選択 予防的・外科的処置	E-5-3/ 必1-イ, 各IV-3-イ	〃
12	11/20	前処置②	保存的・矯正的・補綴的処置	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃
13	11/27	支台歯形成①	支台歯形成の目的と原則, 支台歯の基本形態	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃
14	12/4	支台歯形成②	全部被覆冠の支台歯形成	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃
15	12/11	支台歯形成③ 感染予防	部分被覆冠の支台歯形成 治療における感染対策	E-5-3/ 各IV-3-イ	〃

有床義歯補綴学 I (前期・3単位)

D③④C-a3-3804(D3804)

科目責任者: 高津 匡樹 (有床・教授)

科目担当者: ①高津 匡樹 (有床), ②松本 知生 (有床),
③池田 敏和 (有床), ④内山 梨夏 (有床),
⑤田中みか子 (非常勤)

※この科目は, 診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

有床義歯には歯の部分欠損に対する部分床義歯と全部欠損(無歯顎)に対する全部床義歯がある。有床義歯補綴学 I では全部床義歯補綴学を学習する。全部床義歯は上下顎の一方または両方の歯を喪失した症例に対して装着される義歯で, 人工歯列を付与することにより顎顔面および口腔の形態, 機能, 審美性を回復するとともに, 患者の健康を維持・増進する補綴装置である。ここでは, 全部床義歯を製作・装着するための理論を学ぶ。

2. 一般目標

無歯顎患者の健康を維持・増進させるために, 全部床義歯の臨床的意義を理解し, 全部床義歯を製作・装着するための知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 無歯顎の特徴を説明する。
- 2) 全部床義歯の維持力発現の因子を説明する。
- 3) 全部床義歯の製作過程を説明する。
- 4) 無歯顎の診察・検査・診断法および治療計画の立て方を説明する。
- 5) 前処置の内容と方法を説明する。
- 6) 全部床義歯の維持・支持に関する要因を説明する。
- 7) 全部床義歯の製作過程における理論を説明する。
- 8) 全部床義歯に付与する咬合の理論と平衡咬合を得るための割合を説明する。
- 9) 全部床義歯のメンテナンスに対する考え方を説明する。
- 10) 全部床義歯装着後の異常経過と疾病を説明する。

4. 履修の進め方

講義室において, スライド, プリントなどを用い, 講義を中心とした学習を行う。

5. 準備学修

- 予習: 有床義歯補綴学に関連する基礎科目として, 口腔解剖学, 口腔生理学, 生体材料学の講義・実習を通して学んだ内容を復習して講義に臨む。(30分)
- 復習: 講義内容を当日中に必ず復習し, 講義中に指示のあった箇所および理解が不十分な項目については講義ノート, 配布資料, 教科書により自己学習を行う。(60分以上)

6. 評価方法

毎授業の小テストで形成的評価を行う。総括的評価は, 中間試験(40%)と前期定期試験(60%)で行う。中間試験と前期定期試験は, 筆記試験および選択式試験で行う。なお, 履修態度に応じて10%を上限として加点をする。追試験対象者は80点を, 再試験対象者は65点を, それぞれ上限として評価する。

7. 教本

市川哲雄 他編: 無歯顎補綴治療学 第4版 医歯薬出版 2022

8. 参考書

日本補綴歯科学会編: 歯科補綴学専門用語集 第6版 医歯薬出版 2023

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	無歯顎の特徴	無歯顎の成り立ちと無歯顎の特徴を学ぶ	D-5-3-2/ 総Ⅶ-2	①
2	4/10	全部床義歯の特徴	全部床義歯の構成要素と特徴を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
3	4/10	全部床義歯の製作過程1	全部床義歯の製作過程・製作手順を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
4	4/17	全部床義歯の物理的維持	全部床義歯の維持をもたらす物理的因子を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
5	4/17	全部床義歯の解剖学的維持	全部床義歯の維持をもたらす解剖学的因子を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
6	4/17	全部床義歯の支持と安定	全部床義歯の支持と安定に影響を及ぼす因子を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
7	4/24	無歯顎の診察・検査	無歯顎の診察・検査項目を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	③
8	4/24	無歯顎の診断基準と治療計画	無歯顎の診断基準と治療計画立案を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
9	4/24	前処置	無歯顎補綴治療の前処置を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
10	5/8	無歯顎の印象採得	印象材の種類と印象法の分類を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	①
11	5/8	概形印象採得	概形印象採得と研究用模型・個人トレー製作を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
12	5/8	精密印象採得	筋圧形成と精密印象採得方法を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
13	5/15	作業用模型と咬合床	作業用模型の製作と調整, 咬合床の製作を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	③
14	5/15	咬合採得の進め方	全部床義歯製作のための咬合採得の概要を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
15	5/15	仮想咬合平面の設定	仮想咬合平面の決定法を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
16	5/22	垂直的顎間関係の決定	形態的根拠と機能的根拠に基づく垂直的顎間関係の決定法を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
17	5/22	水平的顎間関係の記録1	器具を使用しない水平的顎間関係の記録法を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	③
18	5/22	水平的顎間関係の記録2	特殊な器具を使用する水平的顎間関係の記録法を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
19	5/29	下顎運動の記録	下顎運動を記録する目的と方法を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	①
20	5/29	下顎運動の記録	下顎運動を記録する目的と方法を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
21	5/29	咬合器と模型の装着	咬合器の種類と模型の装着法を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
22	6/5	咬合器の調節	咬合器の顎路調節法を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
23	6/5	前歯部人工歯の選択	前歯部人工歯の種類と選択法を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
24	6/5	前歯部人工歯の排列	前歯部人工歯の排列基準と排列法を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
25	6/12	臼歯部人工歯の選択	臼歯部人工歯の種類と選択法を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
26	6/12	臼歯部人工歯の排列	臼歯部人工歯の排列の基本原則を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
27	6/12	全部床義歯に付与する咬合様式	全部床義歯に付与する咬合様式を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
28	6/19	歯肉形成とろう義歯試適	歯肉形成およびろう義歯試適時の検査事項を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	④
29	6/19	歯肉形成とろう義歯試適	歯肉形成およびろう義歯試適時の検査事項を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
30	6/19	埋没とレジン重合	ろう義歯の埋没とレジン重合方法を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
31	6/26	埋没とレジン重合	ろう義歯の埋没とレジン重合方法を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
32	6/26	研磨	義歯床用レジンの研磨方法を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
33	6/26	咬合器再装着	重合義歯の咬合器再装着の目的と方法を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	〃
34	7/3	削合	選択削合と自動削合の理論と実際を学ぶ	D-5-3-2/ 各Ⅳ-5	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
35	7/3	義歯装着	完成義歯の試適、装着時の留意事項を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	②
36	7/3	義歯装着	完成義歯の試適、装着時の留意事項を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
37	7/10	義歯装着後の経過	義歯装着後に生じる異常事項と対応を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	⑤
38	7/10	義歯の修理	装着後の破損と修理方法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-8	〃
39	7/10	リラインとリベース	全部床義歯のリライン、リベースを学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-8	〃
40	7/17	金属床義歯	金属床義歯の特徴と製作法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-8	①
41	7/17	特殊な義歯	暫間義歯、即時義歯、治療用義歯、移行義歯および診断用義歯を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
42	7/17	オーバーデンチャー	オーバーデンチャーの特徴、適応症および製作法を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
43	7/24	口蓋補綴	口蓋裂患者の補綴方法と機能回復を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
44	7/24	顎補綴	顎欠損に対する顎義歯の特徴を学ぶ	D-5-3-2/ 各IV-7	〃
45	7/24	全部床義歯の製作過程2	全部床義歯の製作過程とその理論を再度確認する	D-5-3-2/ 各IV-7	〃

有床義歯補綴学Ⅰ実習

(前期・1単位)

D④⑤C-cl-31005(D31005)

科目責任者：高津 匡樹 (有床・教授)

科目担当者：①高津 匡樹 (有床)、②松本 知生 (有床)、
③池田 敏和 (有床)、④内山 梨夏 (有床)、
⑤浅井 政一 (非常勤)、⑥和田 裕一 (非常勤)、
⑦佐久間隆章 (非常勤)、他

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

有床義歯補綴学Ⅰで理解した無歯顎補綴の理論と全部床義歯を製作・装着するための基本的技術を、模型実習を通して修得する。歯科医療における技術とは、「理論を実践する技」であるとの認識に立ち、単に全部床義歯の製作過程・操作を覚えることにとどまらず、背景にある理論を併せて学ぶ。

2. 一般目標

無歯顎患者の健康を維持・増進させるために、全部床義歯を製作・装着するための技術を修得するとともに、その背景にある理論を学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 咬合床の役割と咬合堤の標準的寸法に関する知識を基に、咬合床を製作する。
- 2) 模型を咬合器に装着する方法に関する知識を基に、咬合器を調節する。
- 3) 人工歯排列の基本的原則に則り、咬合堤に人工歯を排列する。
- 4) 回復すべき歯肉形態に関する知識を基に、自然観のある歯肉形態を形成する。
- 5) 蝕義歯をフラスクに埋没する。
- 6) 義歯床用レジンの成形法と重合法に関する知識を基に、レジンを填入・重合する。
- 7) 完成義歯を咬合器に再装着する意義と方法に関する知識を基に、咬合器に再装着する。
- 8) 両側性平衡咬合における咬合接触関係に関する知識を基に、人工歯を削合する。
- 9) 義歯の研磨操作をする。

4. 履修の進め方

中央棟5階の模型実習室において、小人数のグループに分かれてチューターから個別指導を受ける。実習の進行は実習マニュアルに沿って計画的に実施される。

5. 準備学修

予習：有床義歯学に関連する基礎科目として、口腔解剖学、口腔生理学、生体材料学の講義・実習を通して学んだ内容および有床義歯学Ⅰの講義内容を良く理解する。また事前に配布される実習プリント、教科書の関連範囲を熟読して実習に臨む。(60分)

復習：実習内容および実習講義の内容を当日中に必ず復習し、理解が不十分な項目については実習プリント、教科書により自己学習を行う。(30分)

6. 評価方法

実習中の口頭試問、レポート等にて形成的評価を行う。総合的評価は実技試験(40%)、製作物(40%)、実習毎の小テスト(10%)および履修態度(10%)により行う。

7. 教本

細井紀雄 他編：コンプリートデンチャーテクニク 第6版 医歯薬出版 2011年

8. 参考書

日本補綴歯科学会編：歯科補綴学専門用語集 第6版 医

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3 4	4/10	基準線の記入	模型に外形線・歯槽頂線を記入する	D-5-3-2/ 各IV-5	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ 他
5 6 7 8	4/17	上顎模型の咬合器装着	咬合採得し、上顎模型を咬合器に装着	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
9 10 11 12	4/24	下顎模型の咬合器装着	顎間関係の記録をもとに下顎模型を咬合器に装着	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
13 14 15 16	5/8	人工歯排列1	上顎前歯部の人工歯を排列する	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
17 18 19 20	5/15	人工歯排列2	上顎臼歯部の人工歯を排列する	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
21 22 23 24	5/22	人工歯排列3	下顎前歯部の人工歯を排列する	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
25 26 27 28	5/29	人工歯排列4	下顎臼歯部の人工歯を排列する	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
29 30 31 32	6/5	歯肉形成1	唇・頬側歯肉を形成する	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
33 34 35 36	6/12	歯肉形成2	口蓋側・舌側歯肉を形成する	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
37 38 39 40	6/19	歯型の採得	咬合器再装着するためのテンチの歯型を採得	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
41 42 43 44	6/26	フラスク埋没	フラスクに蠟義歯を埋没し流蠟する	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
45 46 47 48	7/3	レジン填入・重合・割り出し	レジンを混和・填入・重合し、義歯を割り出す	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
49 50 51 52	7/10	咬合器再装着・割合	重合した義歯を咬合器に再装着し、割合を行う	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
53 54 55 56	7/17	仕上げ研磨、提出準備	義歯の仕上げ研磨を行い、提出の準備をする	D-5-3-2/ 各IV-5	〃
57 58 59 60	7/24	提出、実技試験	製作物を提出し、人工歯排列の実技試験を受ける	D-5-3-2/ 各IV-5	〃

口腔外科学 I (後期・2単位)

D③④C-a2-3809(D3809)

科目責任者：金 秀樹 (口外・教授)

科目担当者：①金 秀樹 (口外), ②川原 一郎 (口外), ③御代田 駿 (口外), ④小嶋 忠之 (口外)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔外科学とは顎・口腔領域(口唇、頬粘膜、歯肉、口底、舌、口蓋など)の軟組織と上・下顎骨とそれに植立する歯などの硬組織および隣接する顎関節、唾液腺、所属リンパ節などに生じる各種疾患(先天異常、後天異常、損傷、炎症、嚢胞、腫瘍、血液疾患、顎関節疾患、唾液腺疾患、口腔粘膜疾患、神経疾患など)を正しく診断し、外科療法を主体とした適切な治療法を行うとともに、失われた形態と口腔機能の回復を図るための理論と技術を研究する学問であり、臨床歯科医学のなかで特に広範囲な診療科目として体系づけられている。したがって、口腔および口腔に関連する組織・器官の正常な形態と機能を理解するとともに、技能を獲得するための基礎と臨床を含めた歯科医学と隣接医学の幅広い知識が必要である。

2. 一般目標

口腔外科学 I では、顎・口腔領域の疾患に罹患した患者の健康維持・増進を図るために、1) 手術総論、小手術の知識、2) 症性疾患、3) 腔粘膜疾患、4) 血液疾患、5) 損傷、6) 全身疾患と口腔病態(口腔・顔面に症状を現す全身疾患)の基礎的および臨床的な知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 消毒法および切開、止血、縫合の種類と器具、基本術式を説明する。
- 2) 外科処置と全身疾患との関連を理解し説明する。
- 3) 炎症性疾患の分類と症状を説明する。
- 4) 口腔粘膜疾患の分類と特徴を概説し診断と治療法を説明する。
- 5) 血液疾患の分類と特徴を概説し診断と治療法を説明する。
- 6) 損傷の分類と症状を概説し診断と治療法を説明する。
- 7) 全身疾患と口腔病態の種類と症状を概説し診断と治療法を説明する。

4. 履修の進め方

講義主体でスライドと配布資料を使用して履修する。

5. 準備学修

各回の授業内容項目について事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。(30分)

6. 評価方法

後期の講義終了後、講義内容について MCQ および記述式試験を実施し理解度を評価する。再試験は65点未満の不合格者に実施する。最終評価は後期の本試験、追・再試験の全平均点で65点以上を合格とする。

7. 教本

野間弘康, 瀬戸皖一 監修 「標準口腔外科学」第4版 医学書院 2020年

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/6 2限	手術総論および小手術1	手術用器具と材料の滅菌, 術者の手指の消毒	E-1-4/ 総Ⅶ-4-ア	④
2	9/6 3限	手術総論および小手術2	切開の器具, 切開法, 縫の材料・器具, 縫合法	E-1-4/ 総Ⅶ-4-ア	〃
3	9/13 2限	手術総論および小手術3	出血の種類, 止血法	E-1-4/ 総Ⅶ-4-ア	〃
4	9/13 3限	手術総論および小手術4	有病者(全身疾患を有する患者)に対する観血処置の問題点	E-1-4/ 総Ⅶ-4-ア	〃
5	9/20 2限	炎症性疾患1	歯冠周囲炎, 歯周組織炎, 蜂巣炎, 所属リンパ節炎の診断	E-2-4/ 各Ⅲ-1-ウ	①
6	9/20 3限	炎症性疾患2	歯冠周囲炎, 歯周組織炎, 蜂巣炎, 所属リンパ節炎の治療	E-2-4/ 各Ⅲ-1-ウ	〃
7	9/27 2限	炎症性疾患3	顎骨炎, 歯性上顎洞炎の診断	E-2-4/ 各Ⅲ-2-エ	〃
8	9/27 3限	炎症性疾患4	顎骨炎, 歯性上顎洞炎の治療	E-2-4/ 各Ⅲ-2-エ	〃
9	10/4 2限	炎症性疾患5	骨髄炎, 放射線性骨壊死と放射線性骨髄炎の診断と治療	E-2-4/ 各Ⅲ-2-エ	〃
10	10/4 3限	炎症性疾患6	顎部放線菌症, 口腔結核, 口腔梅毒の口腔症状と診断と治療	E-2-4/ 各Ⅲ-1-ウ	〃
11	10/11 2限	炎症性疾患7	菌血症, 敗血症の診断と治療	E-2-4/ 各Ⅲ-1-ウ	〃
12	10/11 3限	損傷1	歯の脱臼, 歯の破折に対する診断と治療	E-2-4/ 各Ⅲ-2-ウ	③
13	10/18 2限	損傷2	軟組織損傷に対する診断と治療	E-2-4/ 各Ⅲ-2-ウ	〃
14	10/18 3限	損傷3	骨折の診断	E-2-4/ 各Ⅲ-2-ウ	〃
15	10/25 2限	損傷4	骨折の治療	E-2-4/ 各Ⅲ-2-ウ	〃
16	10/25 3限	血液疾患1	造血と血液機能, 止血機能, 血液検査と鑑別, 診断	E-2-4/ 各Ⅲ-4-サ	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
17	11/1 2限	血液疾患2	貧血の診断と治療	E-2-4/ 各Ⅲ-4-ク	②
18	11/1 3限	血液疾患3	白血病の診断と治療	E-2-4/ 各Ⅲ-4-ケ	〃
19	11/8 2限	血液疾患4	血小板, 凝固因子, 血管, 線溶系異常の各疾患の診断と治療	E-2-4/ 各Ⅲ-4-コ	〃
20	11/8 3限	口腔粘膜疾患1	水疱, 紅斑・びらんを主徴とする疾患の診断と治療	E-2-4/ 各Ⅲ-1-ク	④
21	11/15 2限	口腔粘膜疾患2	潰瘍, 白斑, 色素沈着を主徴とする疾患の診断と治療	E-2-4/ 各Ⅲ-1-ク	〃
22	11/15 3限	口腔粘膜疾患3	舌炎および類似疾患の診断と治療	E-2-4/ 各Ⅲ-1-ク	〃
23	11/22 2限	口腔粘膜疾患4	口唇炎および類似疾患の診断と治療	E-2-4/ 各Ⅲ-1-ク	〃
24	11/22 3限	全身疾患と口腔病態1	口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群	E-2-4/ 各Ⅲ-4-ア	〃
25	11/29 2限	全身疾患と口腔病態2	感染症の診断と治療	E-2-4/ 各Ⅲ-4-イ	〃
26	11/29 3限	全身疾患と口腔病態3	免疫不全, 免疫疾患の診断	E-2-4/ 各Ⅲ-4-エ	①
27	12/6 2限	全身疾患と口腔病態4	免疫不全, 免疫疾患の治療	E-2-4/ 各Ⅲ-4-オ	〃
28	12/6 3限	全身疾患と口腔病態5	内分泌障害の診断と治療	E-2-4/ 各Ⅲ-4-カ	〃
29	12/13 2限	全身疾患と口腔病態6	代謝異常の診断と治療	E-2-4/ 各Ⅲ-4-カ	〃
30	12/13 3限	全身疾患と口腔病態7	栄養障害の診断と治療	E-2-4/ 各Ⅲ-4-キ	〃

口腔内科学（後期・2単位）

D③④C-a2-3808 (D3808)

科目責任者：高田 訓（口外・教授）

科目担当者：①高田 訓（口外），②白田 真浩（放射），
③高橋文太郎（口外），④中江 次郎（非常勤），
⑤小板橋 勉（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔内科学は、2014年度から正式に標記され取り入れた科目である。現在、奥羽大学歯学部附属病院にも口腔内科として外来が開設されている。1980年代はオーラルメディスンや口腔診断学の概念が強く、口腔疾患の診断がメインと思われがちな科目であった。近年は、全身疾患や心身医学的疾患に関する知識、口腔機能や栄養サポート、院内感染や感染予防、様々な臨床検査や放射線学的診断、口腔病理診断も加えた広範囲で総合的な医学的知識による診断能力を必要とする科目であり、内科的治療の必要性が高い超高齢社会の我が国にとって必要不可欠な科目である。

2. 一般目標

社会の変化や新知見に伴って概念が変わりつつある口腔疾患を広い視野で診断し、全身疾患を把握して他職種と連携して患者個々のニーズに合わせた治療方針を立案できるようにするために、各種疾患を理解して診査・診断・治療法を学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 口腔内科学の定義・役割を学ぶ。
- 2) 診断の進め方を理解する。
- 3) 臨床検査とその意義を理解する。
- 4) 口腔疾患に対する治療法を理解する。
- 5) 全身疾患と口腔疾患との関連を理解する。
- 6) 医療連携と他職種連携を理解する。
- 7) 器質的変化を伴う疾患を理解し、診断する。
- 8) 器質的変化を伴わない疾患を理解し、診断する。
- 9) 口腔機能を理解し、患者のニーズを知る。
- 10) 医療安全と感染対策を理解する。

4. 履修の進め方

2016年に教本が出来た新しい科目である。歯学教育モデル・コア・カリキュラムには診療参加型臨床実習に必要な内容として記載されている。通年30コマのうち、前期15コマは口腔領域に関連した疾患の概要を理解し、様々な疾患名を記憶に残すことを目的に講義形式で履修を進める。後期15コマも講義形式で行うが、臨床における口腔内科の現状を供覧する。30コマを通じて口腔内科学の教本に沿って授業をすすめる。

5. 準備学修

口腔内科学は教本に示した口腔内科学（末永書店）の内容のみならず、基礎系科目の口腔解剖、口腔組織、口腔生化学、口腔生理、歯科薬理、口腔病理、口腔感染免疫などの基本的な知識とともに修得していく必要がある。特に口腔粘膜疾患や口腔外科学で履修する各疾患、更に歯科口腔心身症や全身疾患とも密接に関連するので、口腔外科学第3版や標準口腔外科学第4版も参考に履修するのが望ましい。また、口腔疾患の診断のために必要な臨床検査や心身医学的検査、放射線診断能力や口腔病理学的診断能力など、広い知識をバランス良く頭に入れておく必要がある。履修日前日に30分程度の事前学修が望ましい。

6. 評価方法

MCQ（40～50問）を8割以上、論述を2割未満の形式で満点を100点とする定期試験を行い評価する。65点未満の者に再試を行う。追試験は正式な欠席理由による届出を要し、

追試験に対する再試は実施しない。最終評価は定期試験の本試・追試・再試の全ての平均点を算出し、平均が65点以上の者を合格とする。

7. 教本

口腔内科学 第2版 末永書店

8. 参考書

口腔外科学 第4版 医歯薬出版
標準口腔外科学 第4版 医学書院

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/3	口腔内科とは	口腔内科の定義と役割	E-1-1) / 総IV-1-ア	①
2	9/3	診査・診断-1	インフォームドコンセントと診査・診断の進め方	E-1-1) / 総IV-1-ア	〃
3	9/10	診査・診断-2	他職種連携・病診連携	E-6 / 総IV-6-カ	〃
4	9/10	臨床検査-1	血液・尿・生化学・免疫学的検査	E-1-3 / 総VI-3-ア	〃
5	9/17	臨床検査-2	呼吸器・循環器・病理学的検査	E-1-3 / 総VI-4-ア	〃
6	9/17	臨床現状-1	外部講師による講演	E-2-4 / 総IV-2-ケ	③ ④
7	9/24	臨床現状-2	外部講師による講演	E-2-4 / 総IV-2-ケ	〃
8	9/24	臨床現状-3	外部講師による講演	E-2-4 / 総IV-2-ケ	③ ⑤
9	10/1	臨床現状-4	外部講師による講演	E-2-4 / 総IV-2-ケ	〃
10	10/1	顎口腔機能検査-1	唾液・味覚検査	E-2-4 / 総VI-1-イ	①
11	10/8	顎口腔機能検査-2	嚥下・咀嚼・生理学的検査	E-2-4 / 総VI-1-イ	〃
12	10/8	治療学-1	薬物療法・理学療法	E-2-4 / 総VII-8,9	〃
13	10/15	治療学-2	治療の障害になる疾患	E-2-4 / 総VII-1-エ	〃
14	10/15	治療学-3	終末期医療・ランディング	E-2-4 / 総VII-5-ア, イ, ウ	〃
15	10/22	前期口腔内科学まとめ	前期15コマ総括	E-2 / 必, 総IV, VI, VIII	〃
16	10/22	前期フィードバック	確認試験（形成的評価）	E-2 / 必, 総IV, VI, VIII	〃
17	10/29	全身疾患との関連-1	血液疾患・脳卒中	E-6 / 総V-6-ア	②
18	10/29	全身疾患との関連-2	循環器・呼吸器・肝臓・腎臓疾患	E-6 / 総V-6-ア	〃
19	11/5	全身疾患との関連-3	代謝・内分泌疾患	E-6 / 総V-6-ア	〃
20	11/5	全身疾患との関連-4	アレルギー・自己免疫疾患・感染症	E-6 / 総V-6-ア	③

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
21	11/12	口腔疾患各論-1	炎症性疾患	E-2-4) / 各Ⅲ-1	③
22	11/12	口腔疾患各論-2	皮膚・粘膜疾患	E-2-4) / 各Ⅲ-1	〃
23	11/19	口腔疾患各論-3	唾液腺疾患1	E-2-4) / 各Ⅲ-3-ア	〃
24	11/19	口腔疾患各論-4	唾液腺疾患2	E-2-4) / 各Ⅲ-2	〃
25	11/26	口腔疾患各論-5	神経疾患	E-2-4) / 各Ⅲ-3-イ	②
26	11/26	口腔疾患各論-6	歯科口腔心身症	E-2-4) / 各Ⅲ-4-シ	③
27	12/3	口腔疾患各論-7	顎関節疾患1	E-2-4) / 各Ⅲ-3-ウ	②
28	12/3	口腔疾患各論-8	顎関節疾患2	E-2-4) / 各Ⅲ-3-ウ	〃
29	12/10	医療現場と環境-1	口腔機能と睡眠障害	E-2-4) / 各Ⅳ-1-ク	④
30	12/10	医療現場と環境-2 口腔内科学まとめ	医療安全と感染症対策および総括	E-2-4) / 必2-オ, カ E-2 / 必, 総Ⅴ, 各Ⅲ, Ⅳ	〃

歯科放射線学Ⅰ（後期・2単位）

D③④C-a2-3811(D3811)

科目責任者：原田 卓哉（放射・教授）

科目担当者：①原田 卓哉（放射）、②茂呂祐利子（放射）、
③白田 真浩（放射）、④矢口 剛士（放射）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

放射線の医学利用には放射線診断や放射線治療があり、患者に利益をもたらしている一方で、被曝による危険も共存しています。放射線利用には、知識や技術的なことはもちろん、良識のある放射線診療・インフォームドコンセントも重要になります。

歯科放射線学は基礎放射線学として放射線物理学、放射線生物学、放射線化学を、また臨床放射線学として放射線診断学、放射線治療学、放射線防護学を学びます。基礎放射線学では、放射線の基礎的知識やその生物学的影響を学び、臨床放射線学では放射線を利用した画像診断、放射線治療に必要な撮影技術、腫瘍治療学さらに放射線防護について学びます。

2. 一般目標

- 1) 的確な画像診断を行うために、歯科領域の画像所見における特徴を理解する。
- 2) 口腔領域悪性腫瘍の放射線治療および治療患者の口腔管理を実施するために、放射線治療の基礎と実際を理解する。

3. 到達目標

- 1) 電離放射線の種類、性質および単位について述べる。
- 2) 放射線の生体に対する影響について述べる。
- 3) エックス線画像形成について述べる。
- 4) 口内法エックス線撮影について述べる。
- 5) パノラマエックス線撮影について述べる。
- 6) 口外法エックス線撮影について述べる。
- 7) 特殊撮影について述べる。
- 8) 腫瘍の放射線治療について述べる。
- 9) 放射線治療患者の口腔管理について述べる。

4. 履修の進め方

- 1) 講義、示説で学習する。
- 2) 文書、視覚媒体を用いる。
- 3) 投影視覚媒体を用いる。

5. 準備学修

予習：教科書の熟読を中心に予習する。(60分)

復習：教科書および講義ノートの振り返りにより復習する。(60分)

6. 評価方法

定期試験で評価する。

評価基準：定期試験100%により評価する。追試験の最高点は80点とする。再試験の最高点は65点とする。

試験方法：筆記試験。形式：多肢選択形式および記述式。

範囲：講義内容全範囲。

7. 教本

岡野友宏 他 「歯科放射線学 第6版」医歯薬出版 2018年

8. 参考書

金田 隆 他著「新歯科放射線学」医学情報社 2017年

日本歯科放射線学会編 「歯科臨床における画像診断アトラス 第2版」医歯薬出版 2020年

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/5	電離放射線	原子とその構造, 電離と励起, 電離放射線	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-ア	①
2	9/5	画像検査法の選択	病歴の取り方, 画像検査のための推定診断	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-コ	〃
3	9/12	放射線の線量と単位	放射線の種類と分類, 線量, 放射能, エネルギー	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-ア	〃
4	9/12	口内法撮影	口内法撮影の原理, 水平的角度, 垂直的角度	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-エ	②
5	9/19	エックス線の特徴	エックス線と物質との相互作用, 物質透過作用, 電離作用, 写真作用	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-エ	①
6	9/19	パノラマエックス線撮影	パノラマ撮影の原理, 断層域, 障害陰影	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-エ	③
7	9/26	エックス線撮影装置1	エックス線の発生原理, エックス線管	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-エ	①
8	9/26	頭部エックス線撮影	後頭前頭方向撮影法, 側方向撮影法, 軸方向撮影法	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-エ	〃
9	10/3	エックス線撮影装置2	口内法撮影装置, パノラマエックス線撮影装置	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-エ	〃
10	10/3	顎関節, セファロ	顎関節撮影法, 頭部エックス線規格撮影法(セファログラム)	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-エ	〃
11	10/10	デジタルエックス線撮影装置	デジタルデータの意義, デジタルエックス線撮影装置	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-イ	〃
12	10/10	断層撮影, 造影撮影	断層撮影の概要, 造影剤の種類, 造影剤の具備すべき条件	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-エ, ケ	〃
13	10/17	エックス線フィルム, 増感紙	エックス線フィルムおよび増感紙の構造および種類	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-エ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
14	10/17	エックス線CT1	エックス線CT装置の構造と役割	D-2-5, E-2-5/ 総VI-2-オ	①
15	10/24	エックス線写真処理	現像(広義)の定義, 現像の手順と意義, 使用薬剤の意義	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-エ	〃
16	10/24	エックス線CT2	組織のエックス線吸収率とCT値との関係	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-オ	〃
17	10/31	画像形成	潜像核, 潜像, 金属銀の生成半影, 幾何学的関係	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-エ	〃
18	10/31	MRI原理1	MRIの概要, 原子核のスピン, 共鳴	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-カ	〃
19	11/7	コントラスト	エックス線コントラスト, 特性曲線(黒化度曲線)	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-エ	〃
20	11/7	MRI原理2	縦緩和(スピン-格子緩和), 横緩和(スピン-スピン緩和)	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-カ	〃
21	11/14	鮮鋭度と解像力, 画質	画質の定義, 画質を低下する因子	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-エ	〃
22	11/14	MRI特徴	組織性状および病変と信号強度の関係, 撮影禁忌	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-カ	〃
23	11/21	被曝, 生体への影響	放射線の種類による影響, 人体への影響	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-ウ, ケ	〃
24	11/21	超音波検査1	超音波検査の概要, 超音波検査装置	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-ク	〃
25	11/28	生物学的作用	組織の放射線感受性, 放射線障害	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-ウ	〃
26	11/28	超音波検査2	音響インピーダンス, エコーレベル, エラストグラフィ	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-ク	〃
27	12/5	防護	医療被曝, 職業被曝, 公衆被曝, 診断参考レベル	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
28	12/5	核医学検査	単光子放出型CT, 陽電子放出型断層撮影 (PET) ほか	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-キ	①
29	12/12	画像情報システム	DICOM, PACS, 画像情報システム 病院情報システム	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VI-2-イ	〃
30	12/12	放射線治療	放射線治療の概要, 外部照射, 組織内照射放射線治療の副作用	D-2-5, E-2-5/ 必修-9-カ, 総VII-7-ア, イ, ウ	〃

高齢者歯科学 I (後期・1単位)

D③④C-a1-3806(D3806)

科目責任者：鈴木 史彦 (高齢・教授)

科目担当者：①鈴木 史彦 (高齢), ②本間 達也 (客員)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

現在の日本は高齢化率29.1%の超高齢社会である。超高齢社会の問題点の一つは有病・要介護高齢者の増加である。高齢者特有の身体的・心理的特徴を考慮した歯科治療のみならず、オーラルフレイルや口腔機能低下症等の口腔機能管理と、誤嚥性肺炎予防のための口腔衛生管理を併せた口腔健康管理が必須となる。また、医療・介護・福祉分野による多職種協働において、歯科の果たすべき役割についても理解する必要がある。高齢者歯科学 I では高齢者の特徴を理解するとともに、要介護の原因疾患を学習することで、通院が困難な要介護高齢者の在宅歯科医療や訪問歯科診療に必要な基本的知識を学習していく。本科目は高齢者歯科学の総論に位置するものである。各論として、4年前期に高齢者歯科学 II で摂食嚥下リハビリテーションを学習する。

2. 一般目標 (コンピテンシ)

高齢者の身体的、精神的及び心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。

3. 到達目標 (コンピテンシー)

- 1) 高齢者の生理的、精神心理的及び行動的特徴 (認知症を含む) を理解している。
- 2) 高齢者に多く見られる疾患及び服用薬剤を理解している。
- 3) 高齢者の口腔機能検査と口腔機能管理を理解している。
- 4) 口腔機能低下症を理解している。
- 5) 高齢者における口腔衛生管理の用具と処置を理解している。
- 6) 高齢者の歯科治療時の全身管理を理解している。
- 7) 要介護高齢者 (在宅要介護者を含む) の歯科治療時の注意点を理解している。
- 8) 高齢者の虐待の徴候と対応を理解している。

4. 履修の進め方

講義形式でスライド、資料および教科書を使用して履修する。

5. 準備学修

一般的な身体的特徴を理解していないと、老化の身体的特徴の理解は難しい。本科目の履修準備として生物学と口腔生理学の内容を復習しておくこと。

本科目で履修する内容のうち、他分野と関係が深い科目は次の通りである。高齢者で多くみられる全身疾患：総合臨床医学、口腔粘膜疾患：口腔外科学、介護保険：口腔衛生学、チーム医療：チーム医療学、高齢者で高頻度となる歯科治療：有床義歯学 I・II、保存修復学 I・II、歯内療法学、歯周病学。

事前学習は教科書の該当箇所の重要語句 (赤字・青文字) と国家試験頻出項目 (びっくりマーク) を確認しておくこと (15分)。事後学習は配布資料と授業中に確認した教科書の図表について復習しておくこと (15分)。理解が不十分な項目については担当教員に質問すること。

6. 評価方法

定期試験は、論述試験80点と客観試験20点の合計が、65点以上の者を合格とする。なお、講義開始時に実施する Google フォームによる小テストの正答を5点満点に換算して、定期試験の結果に100点満点を上限として加点する。定期試験65点未満の者と定期試験欠席者に対しては追・再試験

を実施し、定期試験と同様に評価する。定期試験と追・再試験のフィードバックは正答を全員へ配布する。

7. 教本

よくわかる高齢者歯科学 第2版 永末書店

8. 参考書

老年歯科学 第2版 医歯薬出版

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/6	高齢者歯科学	概論高齢者の特性	D-5-7/ 総 I-2-オ-b	①
2	9/13	社会保障	介護保険, 高齢者医療	C-4-3-6/ 総 I-1-ウ-c	〃
3	9/20	全身の加齢変化	身体・精神・心理の加齢変化	D-5-7-1/ 必5エ-b	〃
4	9/27	口腔の加齢変化	顎・口腔・嚥下機能の加齢変化	D-5-7-4/ 総 II-7-エ	〃
5	10/4	高齢患者の臨床評価	全身の評価, 口腔機能の評価	D-5-7-3/ 各 V-4-ア	〃
6	10/11	高齢者に多い口腔疾患	硬組織疾患, 軟組織疾患	D-5-7-2/ 各 V-6-ア~エ	〃
7	10/18	高齢者に多い全身疾患 I	脳血管障害	D-5-7-2/ 総 VII-1-エ	〃
8	10/25	高齢者に多い全身疾患 II	認知症	D-5-7-2/ 総 VII-1-エ	〃
9	11/1	高齢者に多い全身疾患 III	その他の全身疾患	D-5-7-2/ 総 VII-1-エ	〃
10	11/8	チーム医療	チーム医療, 多職種連携	D-6-2/ 必2-ウ	〃
11	11/15	介護施設	介護老人保健施設, 介護老人福祉施設	D-5-7-6/ 総 I-1-エ-g	②
12	11/22	訪問歯科診療	訪問歯科診療の基本, 器具・器材, 実際	D-5-7-7/ 総 I-1-オ	①
13	11/29	各ステージでの歯科の役割	急性期, 回復期, 終末期	D-5-7-7/ 総 VII-1-ウ-c	〃
14	12/6	口腔健康管理	口腔衛生管理, 口腔ケア口腔ケア	D-5-7-5/ 必3-エ	〃
15	12/13	臨床・まとめ	臨床例と講義のまとめ	D-5-7/ 各 V	〃

災害歯科学 (後期・1単位)

D③④C-a1-3805(D3805)

科目責任者: 板橋 仁 (矯正・准教授)

科目担当者: ①板橋 仁 (矯正), ②佐藤 歩 (心理),
③岩原 香織 (非常勤), ④瀬川 洋 (衛生),
⑤中川 敏浩 (組織)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

今から13年前の未曾有の災害、東日本大震災を経験した本学において、災害時の医療体制・歯科的個人識別等、災害発生時の歯科医師の役割について学び、社会に貢献できる歯科医師となることを目標とする。

2. 一般目標

社会における歯科医師の役割を理解し、個人の尊厳と個人情報を守り、将来起こり得る大規模災害等に際して社会に貢献できる歯科医師となるために、災害時の歯科医療について学ぶ。(本学ディプロマポリシー 1, 2 および 6)

3. 到達目標

- 1) 災害時における歯科医師の役割を説明する。
- 2) 災害時の医療体制について説明する。
- 3) 歯科的個人識別について説明する。
- 4) 歯科法医学の基本について説明する。

4. 履修の進め方

講義主体でスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

各回の授業内容項目について、教科書および授業プリントの該当部分を読むこと (15分)

6. 評価方法

定期試験 (100%) により評価し、65点以上で合格とする (多肢選択形式)。追・再試験においては、追試験の評価は90点以上を90点とし、再試験の評価は65点以上を65点とする。

7. 教本

災害歯科学 榎木恵一・中久木康一 編著: 医歯薬出版

8. 参考書

災害時の歯科保健医療対策 ~ 連携と標準化に向けて ~
日本災害時公衆衛生歯科研究会 編: 一世出版
法歯科医学 高橋雅典監修 都筑民幸他編: 永末書店
臨床法医学テキスト 第2版 佐藤喜宣編著: 中外医学社

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/3	総論/災害歯科各論 1	災害の種類と歴史/大規模災害時における歯科医師の役割	C-4-3/ 総 I-1-オ, 総 I-3-ア	①
2	9/10	災害歯科各論 2	災害時の医療体制/ CSCATTT・トリアージ	C-4-3/ 総 I-1-オ	〃
3	9/17	災害歯科各論 3	口腔ケアと誤嚥性肺炎	C-4-3/ 各 V-1-エ	〃
4	9/24	災害歯科各論 4	東日本大震災における本学の社会支援活動 1	C-4-3/ 総 I-1-オ, 総 I-3-ア	〃
5	10/1	災害歯科各論 5	東日本大震災における本学の社会支援活動 2	C-4-3/ 総 I-1-オ, 各 V-1-エ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
6	10/8	災害歯科各論 6	災害時における心のケア1	C-4-3/ 必7-ア, 各Ⅲ-4-シ	① ②
7	10/15	災害歯科各論 7	災害時における心のケア2	C-4-3/ 必7-ア, 各Ⅲ-4-シ	〃
8	10/22	災害歯科各論 8	歯科法医学1 /個人識別/ 性別判定, 年齢推定	C-4-4/ 総 I-3-ア	① ③
9	10/29	災害歯科各論 9	歯科法医学2 /歯科的個人 識別	C-4-4/ 総 I-3-ア	①
10	11/5	災害歯科各論 10	歯科法医学3 /虐待・虐待 の歯科所見	C-4-3/ 総 I-2-ア	① ③
11	11/12	災害歯科各論 11	歯科法医学4 /創傷, 死後 変化	C-4-4/ 総 I-3-ア, 総Ⅲ-3-ア, イ	①
12	11/19	災害歯科各論 12	歯科法医学5 /死の判定	C-4-4/ 総Ⅲ-3-ア, イ	① ③
13	11/26	災害歯科各論 13	歯科法医学6 /死体解剖と 死因究明制度	C-4-4/ 総 I-3-ア	①
14	12/3	災害歯科各論 14	災害から中長期 後の歯科医療 支援活動	C-4-3/ 総 I-1-オ	① ④
15	12/10	総括	災害歯科医学 のまとめ		①

総合臨床医学（後期・1単位）

D③④C-a1-3801(D3801)

科目責任者：風間 咲美（医学・教授）

科目担当者：①風間 咲美（医学）

※この科目は、診療経験のある医師が担当する

1. 科目の概要

歯科治療を行う上で、医学領域との連携が必要な場合は少なくない。総合的に患者を診療していかなくてはならないからである。

歯科医師となる学生に対し、内科学を中心に、全身の疾患の概念につき講義を行うとともに、歯科治療に際し、留意すべきことを医学の面から解説する。

2. 一般目標

臨床歯学の土台となる内科学・外科学の内容を概観し、病の病態、診断、治療に関する知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 医の倫理について説明できる。
- 2) インフォームド・コンセントについて説明できる。
- 3) 医療安全の意義について説明できる。
- 4) 主要な症候と対処法について列挙できる。
- 5) 疾患の診断と治療について説明できる。

4. 履修の進め方

講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

総合臨床医学は、人間性豊かな優れた医療人を輩出するにあたって必須な科目であり、総合臨床医学を履修する前に歯科医療人間学、医療倫理学の内容を知っておくべきである。事前学習・事後学習（各々5分）

6. 評価方法

定期試験（100％）で評価する。評価基準：65点以上を合格とする。追・再試験は各々1回のみとする。追・再試験において65点以上を合格とする。追・再試験の最高点は65点とする。なお追々試験および再々試験は行わない。試験方法：マークシート40問、範囲：講義内容。なお、定期試験のフィードバックは正答を掲示して示す。

7. 教本

千葉俊美 山田浩之「歯科医師のための内科学」 医歯薬出版

馬場秀夫「わかりやすい外科学」 文光堂

8. 参考書

水野嘉夫「歯科医師が知っておくべき全身疾患」 一世出版

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/3	総論	総論（診察, 症候）	D-6-1/ 総Ⅶ-1-エ	①
2	9/10	循環器疾患1	循環器疾患総論, 心不全, 心筋梗塞, 狭心症, 不整脈	D-6-1/ 総Ⅶ-1-エ	〃
3	9/17	循環器疾患2	感染性心内膜炎, 弁膜症, 先天性心疾患, 深部静脈血栓	D-6-1/ 総Ⅶ-1-エ	〃
4	9/24	呼吸器疾患	閉塞性肺疾患（COPD）, 気管支喘息, 呼吸不全, 誤嚥性肺炎	D-6-1/ 総Ⅶ-1-エ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
5	10/1	腎臓疾患	慢性腎臓病 (CKD), 腎不全	D-6-1) / 総Ⅶ-1-エ	①
6	10/8	消化器疾患 (消化管疾患)	消化管疾患総論, 消化性潰瘍	D-6-1) / 総Ⅶ-1-エ	ク
7	10/15	消化器疾患 (肝臓・胆嚢・膵臓疾患)	肝硬変, ウイルス性肝炎	D-6-1) / 総Ⅶ-1-エ	ク
8	10/22	アレルギー疾患	アレルギー疾患, 膠原病, 免疫不全, 後天性免疫不全症候群 (AIDS)	D-6-1) / 総Ⅶ-1-エ	ク
9	10/29	内分泌疾患	内分泌疾患, 骨粗鬆症	D-6-1) / 総Ⅶ-1-エ	ク
10	11/5	糖尿病	糖尿病	D-6-1) / 総Ⅶ-1-エ	ク
11	11/12	神経疾患	脳血管障害, Alzheimer 病, Parkinson 病	D-6-1) / 総Ⅶ-1-エ	ク
12	11/19	血液疾患	貧血, 白血病, 出血性素因	D-6-1) / 総Ⅶ-1-エ	ク
13	11/26	感染症	ウイルス感染症, 細菌感染症, 真菌感染症	D-6-1) / 総Ⅶ-1-エ	ク
14	12/3	その他の疾患	依存症 (アルコール・薬物等), 婦人科疾患総論	D-6-1) / 総Ⅶ-1-エ	ク
15	12/10	復習	総まとめ	D-6-1) / 総Ⅶ-1-エ	ク